

土 塩 中 原 遺 跡

(一)長久保郷原線(上増田工区)社会资本総合整備
(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



（一）長久保郷原線（上増田工区）社会资本総合整備
(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

110
111

2023

群馬県安中土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

土 塩 中 原 遺 跡

(一)長久保郷原線(上増田工区)社会資本総合整備
(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う
埋 藏 文 化 財 発 挖 調 査 報 告 書

2023

群馬県安中土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

県道長久保郷原線は、安中市松井田町土塙付近から同町小日向付近を通る県道です。県道沿線にある小学校や中学校の児童・生徒が通学路に利用するなど、地域住民の大変な生活道路でもあります。

群馬県は、道路を利用する歩行者や自転車の安全な通行を確保するための取り組みの一環として、同県道の松井田町上増田地区において歩道整備事業を実施することになりました。

土塙中原遺跡は、この歩道整備事業に伴い令和4年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査しました。本報告書は、その調査成果をまとめたものです。

発掘調査により、縄文時代では遺物の集中した場所や土坑・ピットが検出され、前期の土器や石器が多数出土しました。平安時代では、調査区の広い範囲から復旧坑が検出されました。復旧坑は、1108年に噴火した浅間山の火山灰で被災した畑を復旧した遺構で、平安時代の人々による災害復興の様子が解明できました。

発掘調査から整理作業、そして報告書の刊行に至るまで、群馬県県土整備部、群馬県安中土木事務所、群馬県地域創生部、安中市教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なご協力とご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり衷心より感謝申し上げます。

本報告書が地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願い、序とします。

令和5年7月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

1. 本書は、(一)長久保郷原線(上増田工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴い、令和4年度に発掘調査された土塙中原遺跡(ひじしおなかはらいせき)の発掘調査報告書である。

2. 土塙中原遺跡は、群馬県安中市松井田町土塙地内に所在する。

地番は、791-7、968-4、969-4、969-5、969-6、969-7、972-2、972-3、972-4、973-3、973-4、973-5、974-3、974-4、974-5、974-6、975-3、975-4、975-5、1007-3、1007-5、1007-6、1007-7、1008-2、1008-4、1008-5、1008-14、1008-15、1008-16、1008-17、1009-4、1009-5、1009-6、1009-7、1009-8、1009-9、無番地道である。

3. 事業主体 群馬県安中土木事務所

4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

履行期間 令和4年4月1日～令和4年6月30日

調査期間 令和4年4月1日～令和4年4月30日

調査担当 新井 仁(専門調査役)

遺跡掘削工事請負 有限会社毛野考古学研究所

地上測量業務委託 アコン測量設計株式会社

遺物洗浄注記業務委託 社会福祉法人ゆずりは会

6. 整理作業の期間と体制は次の通りである。

履行期間 令和5年4月1日～令和5年7月31日

整理期間 令和5年4月1日～令和5年5月31日

整理担当 関口博幸(上席調査研究員・資料統括)

7. 本書作成の担当者は次の通りである。

編集 関口博幸

デジタル編集 齋田智彦(主任調査研究員)

遺構写真 調査担当者

遺物実測・観察表作成 繩文土器：橋本 淳(主任調査研究員・資料統括)、繩文石器：関口博幸

遺物写真撮影 関口博幸

本文執筆 関口博幸

8. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

9. 発掘調査及び報告書の作成にあたり、次の関係機関にご指導並びにご協力をいただきました。記して感謝申し上げます(敬称略)。

群馬県県土整備部、群馬県安中土木事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、安中市教育委員会

凡　例

1. 本報告書の挿図で使用した座標値については、世界測地系(測地成果2011・日本測地系IX系)を用いた。遺構図中に記した座標値については、国家座標軸X・Y値の下3桁を表記した。方位については、座標北を用いた。
2. 等高線、遺構断面図基準線に記した数値については、海拔標高値である。
3. 遺構番号については、調査区や時代に関係なく遺構種ごとに1番から番号を付した(例：1号遺物集中、1号土坑、1号ピット、1号復旧坑)。
4. 本報告書で記した遺構番号については、発掘調査時に付された番号を踏襲した。遺構番号に欠番や抹消があつても、既存の遺構番号と遺構図面・写真ファイル名・遺物注記などとの照合を一致させるために、遺構番号の変更や振り替えは行っていない。
5. 遺構図の縮尺は、1/40、1/100、1/200、1/400であり、各挿図中にスケールを記した。
6. 遺物図の縮尺は、縄文土器については1/3、縄文石器については1/1、4/5、1/3であり、各挿図中にスケールを記した。
7. 遺物写真的縮尺は、遺物図の縮尺と同じである。
8. 遺物図中に記した各記号は、次のとおりである。
 - 縄文土器：断面図●=胎土に纖維を含む
 - 縄文石器：■=敲打痕、■=摩耗痕
9. 遺構一覧表の計測値(長さ・幅・深さ)の単位については、cmである。計測値の前に記した△は調査区外やほかの遺構に切られることを示す。
10. 遺物観察表・石器一覧表で示した石器の計測値(長さ・幅・厚さ・重量)の単位については、mm・gである。
11. 本報告書中で記した、テフラの略称は次のとおりである。

浅間A軽石 As-A	浅間板鼻褐色軽石群 As-BPGroup
浅間B軽石 As-B	浅間室田軽石 MP
浅間C軽石 As-C	始良丹沢火山灰 AT
浅間板鼻黄色軽石 As-YP	

目 次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第1章 調査に至る経緯・調査の方法・調査経過

第1節 調査に至る経緯	1
(1)概要	1
(2)遺跡が所在する安中市	1
(3)県道長久保郷原線の歩道整備事業	2
(4)調査に至る経緯	2
第2節 調査の方法	2
(1)調査面積と調査範囲	2
(2)安全対策	2
(3)調査区の設定	2
(4)グリッドの設定	2
(5)遺構確認面の設定と遺構の調査	2
(6)記録方法	4
(7)遺物洗浄注記作業	4
(8)小結	4
第3節 調査経過	4
第4節 整理作業	4

第2章 地理的環境と周辺遺跡・基本土層

第1節 地理的環境	5
(1)遺跡の位置	5
(2)緯度・経度と標高	5
(3)遺跡の周辺地形・立地地形	5
第2節 周辺遺跡	5
第3節 基本土層	9

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 概要	10
第2節 縄文時代の遺構と遺物	10
(1)遺構	10
(2)遺物	10
(3)遺物集中	11
(4)土坑	13
(5)ピット	15
(6)遺構外出土遺物	19
第3節 平安時代以降の遺構と遺物	
(1)概要	20
(2)復旧坑の概要	20
(3)復旧坑の形成時期	20
(4)復旧坑の形成過程	20
(5)復旧坑	20

第4章 調査成果

第1節 縄文時代	37
(1)出土遺物について	37
(2)遺構について	37
第2節 平安時代	37
遺構一覧表	38
遺物観察表	39
石器一覧表	42
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	事業地の位置	1	第13図	1区1号遺物集中出土遺物(2)	25
第2図	調査範囲	3	第14図	縄文時代の土坑(1)	26
第3図	調査区の設定	3	第15図	縄文時代の土坑(2)	27
第4図	道路の位置	5	第16図	縄文時代のピット(1)	28
第5図	道路の周辺地形	6	第17図	縄文時代のピット(2)	29
第6図	道路の立地地形	6	第18図	遺構外出土遺物	30
第7図	周辺道路	7	第19図	平安時代以降・遺構全体図	31
第8図	基本上層	9	第20図	1区1号復旧坑	32
第9図	縄文土器型式別点数グラフ	11	第21図	1区2号・3号復旧坑	33
第10図	縄文時代・遺構全体図(1区・2区)	22	第22図	2区4号復旧坑	34
第11図	1区1号遺物集中遺物分布図	23	第23図	2区5号復旧坑	35
第12図	1区1号遺物集中出土遺物(1)	24	第24図	3区6号復旧坑	36

表 目 次

第1表	調査成果の概要	4	第5表	縄文石器集計表(遺構別・器種別点数)	12
第2表	周辺道路一覧表	8	第6表	縄文石器集計表(器種別・石材別点数)	12
第3表	検出された遺構	10	第7表	縄文石器集計表(器種別・石材別重量)	12
第4表	縄文土器集計表(遺構別・土器型式別)	11			

写真目次

P L. 1	1 1区北側2面全景(北西から)	15 2区8号土坑全景(北から)
	2 2区北側3面全景(南東から)	1 2区8号土坑セクション(北から)
P L. 2	1 1区北側2面全景(南東から)	2 2区9号土坑全景(東から)
	2 1区北側2面全景(南東から)	3 2区9号土坑セクション(西から)
	3 1区北側東壁セクション(南東から)	4 2区10号土坑全景(西南から)
	4 1区南側東壁セクション(西から)	5 2区10号土坑セクション(西南から)
	5 2区南側as-b下全景(南東から)	6 2区11号土坑全景(南から)
	6 2区南側2面全景(北西から)	7 2区11号土坑セクション(西から)
	7 2区南側東壁セクション(1)(南から)	8 2区12号土坑全景(南から)
	8 2区南側東壁セクション(2)(南から)	9 2区12号土坑セクション(西から)
P L. 3	1 3区as-b下全景(北西から)	10 2区13号土坑全景(南から)
	2 3区as-b下全景(南東から)	11 2区13号土坑セクション(西から)
	3 調査風景(北から)	12 2区14号土坑全景(南から)
	4 1区南側東壁セクション(南から)	13 2区14号土坑セクション(西から)
	5 2区南側東壁セクション(南から)	14 2区15号土坑全景(東から)
	6 3区東壁セクション(南から)	15 2区15号土坑セクション(東から)
	7 1区1号トレレンチセクション(1)(南から)	P L. 7 1 2区16号土坑全景(南から)
	8 1区1号トレレンチセクション(2)(南から)	2 2区16号土坑セクション(南から)
P L. 4	1 1区1号遺物集中全景(北西から)	3 1区北側2面全景(北西から)
	2 1区1号遺物集中セクション(南東から)	4 1区2号ピット全景(東から)
	3 1区1号遺物集中遺物出土状態(1)(北から)	5 1区2号ピットセクション(西から)
	4 1区1号遺物集中遺物出土状態(2)(北から)	6 1区3号ピット全景(東から)
	5 1区1号遺物集中遺物出土状態(3)(北から)	7 1区3号ピットセクション(西から)
P L. 5	1 1区1号土坑全景(北から)	8 1区4号ピット全景(西から)
	2 1区1号土坑セクション(西から)	9 1区4号ピットセクション(西から)
	3 1区2号土坑全景(東から)	10 1区5号ピット全景(東から)
	4 1区2号土坑セクション(東から)	11 1区5号ピットセクション(西から)
	5 1区3号土坑全景(西から)	12 1区6号ピット全景(東から)
	6 1区3号土坑セクション(北西から)	13 1区6号ピットセクション(西から)
	7 1区4号土坑全景(西から)	14 1区7号ピット全景(北から)
	8 1区4号土坑セクション(西から)	15 1区7号ピットセクション(南から)
	9 1区5号土坑全景(西から)	P L. 8 1 1区8号ピット全景(南東から)
	10 1区5号土坑セクション(北から)	2 1区8号ピットセクション(南から)
	11 1区6号土坑全景(南から)	3 1区9号ピット全景(南から)
	12 1区6号土坑セクション(南から)	4 1区9号ピットセクション(北から)
	13 1区7号土坑全景(西から)	5 1区10号・11号ピット全景(南から)
	14 1区7号土坑セクション(西から)	6 1区10号ピットセクション(南から)

	7	1区1号ビットセクション(南から)	P L. 14	1区1号遺物集中出土遺物(1)
	8	1区2号ビット全景(南から)	P L. 15	1区1号遺物集中(2)・2号土坑出土遺物
	9	1区12号ビットセクション(南西から)	P L. 16	土坑・ビット・道構外出土遺物
	10	1区3号ビット全景(南西から)		
	11	1区3号ビットセクション(西から)		
	12	1区4号ビット全景(南東から)		
	13	1区4号ビットセクション(東から)		
	14	1区5号ビット全景(南西から)		
	15	1区5号ビットセクション(西から)		
P L. 9	1	1区16号ビット全景(東から)		
	2	1区16号ビットセクション(東から)		
	3	1区17号ビット全景(南から)		
	4	1区17号ビットセクション(西から)		
	5	1区18号ビット全景(東から)		
	6	1区18号ビットセクション(東から)		
	7	1区19号ビット全景(西から)		
	8	1区19号ビットセクション(西から)		
	9	1区20号ビット全景(西から)		
	10	1区20号ビットセクション(西から)		
	11	1区21号ビット全景(南から)		
	12	1区21号ビットセクション(南から)		
	13	1区22号ビット全景(南から)		
	14	1区22号ビットセクション(南から)		
	15	1区23号ビット全景(西から)		
P L. 10	1	1区23号ビットセクション(西から)		
	2	2区4号ビット全景(南から)		
	3	2区4号ビットセクション(南から)		
	4	2区5号ビット全景(南から)		
	5	2区5号ビットセクション(西から)		
	6	2区6号ビット全景(西から)		
	7	2区6号ビットセクション(南から)		
	8	2区7号ビット全景(東から)		
	9	2区7号ビットセクション(東から)		
	10	2区28号ビット全景(東から)		
	11	2区28号ビットセクション(東から)		
	12	2区29号ビット全景(東から)		
	13	2区29号ビットセクション(南から)		
	14	2区30号ビット全景(東から)		
	15	2区30号ビットセクション(西から)		
P L. 11	1	2区31号ビットセクション(西から)		
	2	2区31号ビット全景(南から)		
	3	2区32号ビット全景(南東から)		
	4	2区32号ビットセクション(南から)		
	5	2区33号ビット全景(東から)		
	6	2区33号ビットセクション(東から)		
	7	1区前面 2面全景(南東から)		
	8	3区全景(南東から)		
	9	調査風景(1)(北西から)		
	10	調査風景(2)(南東から)		
P L. 12	1	1区1号復旧坑As-B下全景(1)(南から)		
	2	1区1号復旧坑As-B下全景(2)(南から)		
	3	1区1号復旧坑As-B下全景(3)(南から)		
	4	1区1号復旧坑As-B下全景(4)(南から)		
	5	1区2号復旧坑1号土坑(南から)		
	6	1区2号復旧坑8号土坑(南から)		
	7	1区2号復旧坑9号土坑(南から)		
	8	1区2号復旧坑10号土坑(南から)		
P L. 13	1	1区3号復旧坑As-B下全景(1)(北西から)		
	2	1区3号復旧坑As-B下全景(2)(南東から)		
	3	2区4号復旧坑As-B下全景(1)(南東から)		
	4	2区4号復旧坑As-B下全景(2)(南東から)		
	5	2区5号復旧坑全景(1)(北西から)		
	6	2区5号復旧坑全景(2)(南東から)		
	7	3区6号復旧坑全景(南東から)		
	8	3区東面セクション(南から)		

第1章 調査に至る経緯・調査の方法・調査経過

第1節 調査に至る経緯

(1)概要

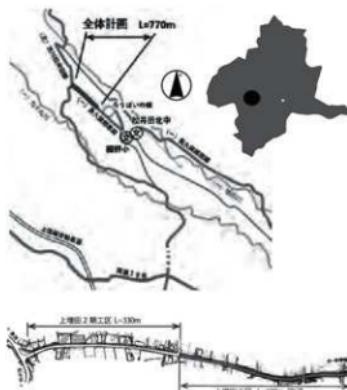
群馬県は、本州のほぼ中央部に位置する関東地方の内陸県である。首都・東京から見て約100km圏内の関東地方北西部に位置していることから、群馬県は高速道路や新幹線などの高速交通網の整備が進み、関東地方各地だけでなく太平洋側地域や日本海側地域、北陸地方、東北地方などの各地域と東京を結ぶ中継地としての役割を発揮している。例えば、首都圏と日本海側の新潟県を結ぶ高速交通網として、関越自動車道と上越新幹線が県土を南北に縦貫し、また長野県や北陸の富山県・石川県を結ぶ上信越自動車道や北陸新幹線が県土を東西に横断している。さらに、太平洋側の茨城県を結ぶ北関東自動車道が県土を東西に横断し、県東部には東京と東北地方を結ぶ東北自動車道が縦断している。

このように、群馬県は複数の高速交通網が交差する十字軸を形成した地域で、東京と関東地方、中部地方、太平洋側地域、日本海側地域を繋ぐ結節点となっている。全国でも有数の内陸交通の要衝地であり、群馬県の経済、産業、防災、生活全般を支える大きな利点といえる。

こうした群馬県の地理的な特性と整備された高速交通網の利点を生かし、高速道路に接続する道路をより一層整備していくことで、群馬県は関東地方各地の空港や太平洋・日本海の港湾など、国際交流拠点に繋がる所要時間が短縮され、地理的な優位性を一層発揮でき、企業の生産・物流・バックアップ拠点、防災、観光振興としての役割の向上が期待された地域といえる。

そして、関越自動車道や上信越自動車道、北関東自動車道、上越新幹線、北陸新幹線、上武道路などの大規模事業をはじめ、道路拡幅などの小規模事業を含めた各種の公共開発事業に伴い、群馬県内各地で発掘調査が行われることになった。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下、事業団という)は、1978年の設立以来、これらの公共開発事業と埋蔵文化財の記録保存の調和を図るために、県内



第1図 事業地の位置(群馬県2022より引用)

各地で数多くの遺跡を発掘調査してきたのである。本報告の土塙中原遺跡もその一つである。

(2)遺跡が所在する安中市

本遺跡は、群馬県安中市松井田町土塩地内に所在する。安中市は、西毛地域とよばれる群馬県西部に位置し、江戸時代には五街道の一つである中山道が市内を東西に横断し、安中宿や松井田宿などが宿場町として栄えた。碓氷峠には関所が設置され、人と物資の往来を監視し陸上交通の要衝地としての役割を果たしてきた。

現在では、北陸新幹線や上信越自動車道、国道18号線、西毛広域幹線道路などの高速交通網や幹線道路が整備され、安中市は首都圏と長野県・北陸地域を結ぶ交通の要衝地となっている。

また、安中市は紅葉で有名な妙義山や霧積湖、妙義湖などの自然、碓氷第三橋梁(めがね橋)や旧丸山変電所、アパートの道などの碓氷峠鉄道遺産をはじめ、磯部温泉、霧積温泉、秋間梅林などの観光資源にも恵まれており、整備された交通網と各地の観光資源を一体的に活用した地域振興が進められている。

一方、地域振興が進むと同時に地域住民からは、災害

時の安全確保や強弱な交通網の整備、移動手段の確保、学校周辺や市街地での歩行者・自転車の安全確保のための歩道整備、観光地での一層の集客と渋滞解消のための交通対策といった要望が群馬県に寄せられるようになった。

(3) 県道長久保郷原線の歩道整備事業(第1図)

県道長久保郷原線は、安中市松井田町土塙付近から同町小日向付近を通過する県道である。沿線には小学校や中学校があり、児童・生徒の通学路として利用される道路である。しかし、交通量が多いわりに歩道が狭いため、地域住民からは安全な通学路を確保するための歩道整備の要望が寄せられていた。

群馬県国土整備部は、このような地域の要望を受け「歩行者や自転車の安全な通行を確保するため」(群馬県2022)の取り組みの一環として、安中市松井田町上増田地内の県道長久保郷原線において歩道整備事業を実施することになった(群馬県2022)。

(4) 調査に至る経緯

本遺跡は、この歩道整備事業に伴い、事業団によって令和4年度に発掘調査された遺跡である。調査に至る経緯は次のとおりである。

当該事業を担当する群馬県安中土木事務所(以下、安中土木といふ)は、事業実施に先立ち群馬県地域創生部文化財保護課(以下、文化財保護課といふ)に事業地の埋蔵文化財の試掘調査を依頼した。文化財保護課は、事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地(安中市遺跡番号U0039遺跡)の範囲内にあるため、試掘調査を実施して遺構・遺物の分布範囲を確認することにした。

試掘調査の結果、遺構・遺物が広範囲に分布することが確認された。このことから、文化財保護課は事業地の本調査が必要であると判定し、安中土木に回答した。

安中土木は、試掘調査の結果を受けて当該事業地の本調査を実施することになった。文化財保護課の調整により、当事業団が本遺跡の本調査を実施することになり、安中土木と当事業団は発掘調査に関する契約を結んだ。調査面積は775.56m²、調査期間は令和4年4月1日から令和4年4月30日までの1か月間とした。

引用文献

群馬県2022 「令和4年度版よくわかる公共事業～公共事業の目的、効果、進捗状況を情報発信～～安中地域～～群馬県ホームページ

第2節 調査の方法

(1) 調査面積と調査範囲(第2図・3図)

調査面積は、775.56m²である。調査範囲は、概ねX=39765～39915、Y=-95395～-95565の範囲内である。

歩道整備に伴う県道拡幅の発掘調査で、幅約1～3m×総延長約230mの狭く細長い調査範囲となった。

(2) 安全対策

狹長な調査範囲全体が県道に直接面していたため、全体に安全柵を設置し安全を確保して調査した。また、表土掘削や排土の処理も安全面に配慮し、小型の重機やダンプを利用した。さらに幅が狭い3区は小型の重機も入れないためすべて人力で掘削した。

(3) 調査区の設定(第3図)

調査範囲は東西に細長いため、現道や建物を境界として東から西へ順に調査区を1区・2区・3区に分割した。

(4) グリッドの設定

グリッドの設定は行わなかった。このため、遺構に伴う出土遺物については遺構ごとに取り上げたものの、遺構に伴わない遺物包含層等の出土遺物については各調査区の一括で取り上げた。

(5) 遺構確認面の設定と遺構の調査(第8図)

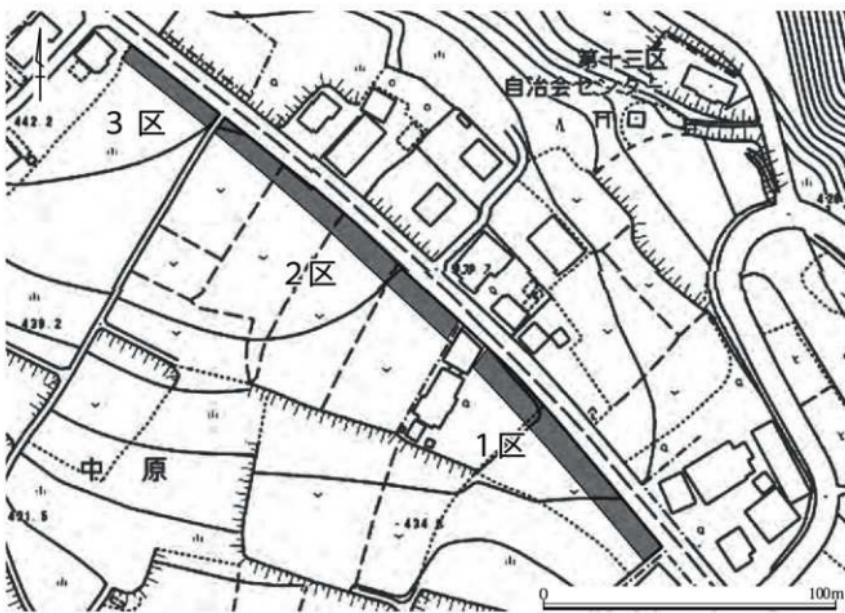
遺構確認面は1面と2面の計2面を設定した。1面はIV層上面に設定した。平安時代以降の遺構検出を目的とした遺構確認面で、主な遺構として平安時代のAs-B降灰に伴う復旧坑を検出した。2面はVI層上面に設定した。古墳時代から縄文時代の遺構検出を目的とした遺構確認面で、縄文時代の遺物集中や土坑、ピットを検出した。

表土掘削は、1区・2区は小型のバックフォーで行い、3区は人力で行った。表土掘削後に1面の遺構確認作業を行った。2面は1面の調査終了後に人力で掘削して遺構確認作業を行った。

検出した遺構は番号を付与して調査した。遺構番号は遺構種ごとに調査区や時代に関係なく遺跡全体での通し番号とした。復旧坑は平面的な広がりを確認し、掘り方を測量した。また、調査区壁面で土層セクション



第2図 調査範囲(安中市都市計画図を加工)



第3図 調査区の設定(安中市都市計画図を加工)

図・土層注記・調査所見を記録した。土坑・ピットは

作製した。

半裁し、遺構内の埋没土層(遺構覆土)の写真撮影と土層セクション図・土層注記・調査所見を記録した。その後、完掘して全景及び遺物出土状況を写真撮影し、平面図を

遺構確認作業や遺構調査に伴う一連の掘削作業は調査担当者の管理指導のもと、遺跡掘削監理技術者が発掘操作員に指示して行った。

(6)記録方法

遺構図面は、測量会社に委託して作製した。遺構平面図、土層セクション図、遺物出土位置を電子平板でデジタル測量してデータ化し、紙出力とデジタルデータをDVDで納品した。図面の縮尺は1/20を基本とし、ほかに1/40、1/100、1/200とした。

土層注記は、調査担当者が行った。土層観察には土色帳(新版標準土色帳)を使用した。

出土遺物は、遺構ごとにラベルを付して取り上げた。出土位置の詳細な記録が必要な遺物については、遺構ごとに遺物番号を付けて座標値を測量し取り上げた。遺構に伴わない遺物については、グリッドを設定していないため各調査区の一括遺物として取り上げた。

遺構写真は、調査担当者が撮影した。基本的に35mmデジタルカメラを使用した。写真データはRAWデータで記録し、外付けハードディスク・DVDで保管した。また、6×7サイズカメラも使用し、モノクロフィルムISO4000プロ一版120タイプで撮影した。

(7)遺物洗浄注記作業

出土遺物は遺物収納コンテナ箱2箱であった。遺物の洗浄作業と注記作業は委託により実施した。

(8)小結(第1表)

計775.56m²を調査した。検出された遺構は、縄文時代では遺物集中計1か所、土坑計16基、ピット計32基、平安時代では復旧坑計5基、中世では復旧坑計1基であった。出土遺物は遺物収納コンテナ箱2箱分で、そのうちの大部分が縄文土器であった。

第3節 調査経過

発掘調査は、令和4年4月1日から令和4年4月30日まで行った。主な調査経過は次のとおりである。

- 4月1日 調査開始
- 4月4日 現地確認
- 4月6日 安全柵設置
- 4月7日 1区表土掘削開始
- 4月8日 1区表土掘削及び遺構確認作業
- 4月11日 1区As-B下復旧坑、土坑、ピットの調査

第1表 調査成果の概要

調査面積 (m ²)	時代	遺構			遺物
		遺物集中	土坑	ピット	
775.56	縄文	1	16	32	2箱
	平安			5	
	中世			1	

4月15日	2区表土掘削開始
4月18日	1区As-B下復旧坑の調査、1区全景写真
4月19日	1区1号遺物集中の調査
4月22日	2区As-B下復旧坑の調査
4月25日	調査区セクションの写真及び測量
4月26日	3区As-B下復旧坑の調査終了
4月27日	事務所撤収作業
4月30日	調査終了

第4節 整理作業

整理作業は、発掘調査に引き続き当事業団が行った。令和5年4月1日から開始し令和5年5月31までの2か月間行った。

まず出土遺物と遺構図面・写真的基礎整理作業から開始した。縄文時代の遺構と遺物が主体であったため、縄文土器と縄文石器の整理作業が中心となった。

縄文土器については、土器型式の分類と集計作業を行ないデータ作成した。縄文石器については、器種分類と石材同定、集計作業を行い、石器の属性観察とデータ作成を行った。遺構図面・写真については、撮影デジタルデータを編集作業した。

次に縄文土器・縄文石器のデジタル写真撮影と編集作業、実測トレース作業、遺物観察表作成を行った。並行して、報告書に刊行に向けて原稿作成、遺構・遺物図面とデジタル写真のレイアウト編集作業を行った。

次に記録図面・写真類と遺物の収納作業を行い、令和5年5月31日に整理作業は終了した。

最後に、令和5年7月に本報告書を刊行し、関係機関に発送して本事業に伴う整理作業はすべて終了した。

第2章 地理的環境と周辺遺跡・基本土層

第1節 地理的環境

(1) 遺跡の位置(第4・5・6・7図)

本遺跡は、群馬県安中市松井田町土塩地内に所在する。本遺跡から見て、北陸新幹線安中榛名駅は東方約7km、上信越自動車道松井田妙義インターチェンジは南方約4.5km、JR信越本線横川駅は南西約3.5kmに位置する。

また、本遺跡は関東地方北西部の内陸部に位置し、遺跡から海岸までの最短距離は、日本海までが約100km、太平洋(東京湾)までが約120kmである。

(2) 緯度・経度と標高

緯度・経度は、東西に細長い調査範囲の中心付近で、北緯36度21分16秒、東経138度46分10秒である。

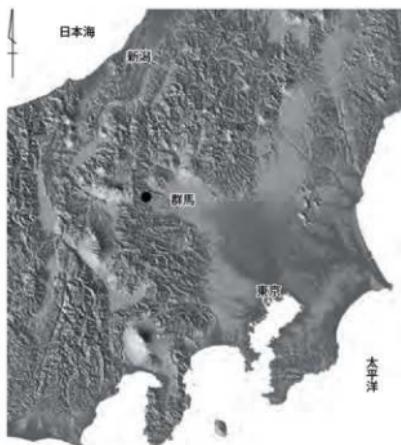
標高は、この調査範囲の西端部で約443m、中央部で約440m、東端部で約435mである。調査範囲内の標高差は約8mである。

(3) 遺跡の周辺地形・立地地形(第5・6図)

安中市は、西毛地域と呼ばれる群馬県西部地域の一角に位置する。わが国最大の流域面積を持つ利根川水系の支流の一つである碓氷川が市の中心部を東流する。安中市は碓氷川流域全体の範囲に相当する。

碓氷川は碓氷峠の東側付近の山間部を源流とし、入山川や霧積川、中木川、九十九川、柳瀬川などの支流を集めながら東流し、やがて高崎市常盤町付近で烏川に合流する、流路延長約37.6kmの一級河川である。市東半部では碓氷川やその支流が形成した河岸段丘が発達し平坦地が比較的多い。一方、市西半部を占める松井田町は山間地が大部分を占め、特に碓氷峠や入山峠がある県境の西端部付近では険しい山岳地形となっている。

また、安中市松井田町一帯は関東地方最北西部に相当し、本遺跡の西方約10km付近には太平洋側地域と日本海側地域及び中部高地を画する分水嶺が南北に継走している。この分水嶺には、北から鼻曲山(1655m)、留夫山(1590.8m)、矢ヶ崎山(1184.1m)、愛宕山(1191.8m)な



第4図 遺跡の位置(●)
(国土地理院・地理院地図をもとに作成)

どの山岳部が南北に連なり、碓氷峠や入山峠などの峠は古くから関東地方と中部高地を連絡する交通の要衝地となっていた。なお、この分水嶺は群馬県と長野県を画する県境であり、県境の東側が群馬県安中市松井田町、西側が長野県北佐久郡軽井沢町である。

本遺跡は、安中市内を東流する碓氷川の左岸側に位置する。左岸側には碓氷川支流の九十九川が並走するよう東流し、市東端の中宿付近で碓氷川に合流する。本遺跡はこの合流点から九十九川を直線で約13km上流に遡った丘陵地に立地する。

この丘陵地は、遺跡の北西約2.5kmにある高戸谷山(739.3m)から南東方向に延びる裾野に相当する地形で、南東方向に並走して流れる九十九川と増田川に挟まれた幅約800m・長さ約6kmの細長い丘陵地である。遺跡はこの裾野が平坦な丘陵地に移り変わる境界付近に立地している。この範囲では、傾斜の緩やかな丘陵地が発達しているが、丘陵地の北側と南側は山間地となっている。

第2節 周辺遺跡

(第7図、第2表)

本遺跡の周辺には縄文時代以降の多数の遺跡が分布している。ここでは、碓氷川左岸側で、本遺跡が立地する九十九川と増田川に挟まれた丘陵地とその周辺の主な遺跡について、各時代の様相とともに示す。

旧石器時代では、本遺跡の周辺ではまだ確実に調査した旧石器遺跡はない。碓氷川左岸側で古城遺跡、右岸側で向原IV遺跡が調査されているものの、赤城山南麓地域や大間々扇状地(桐原面)地域に比べて旧石器遺跡の調査例はとても少ない。この原因は、ローム層中にテフラが厚く堆積し、旧石器遺跡の確認調査を難しくしているためである。決して旧石器遺跡が存在しないのではない。

碓氷川流域は、浅間山から近いためMPやAs-BPGroup、As-YPなどのテフラが群馬県内で最も厚く堆積している地域である。しかも、これらのテフラは最も多くの旧石器遺跡が存在する暗色帯(AT下位

で約3万年以前)の上位に堆積しているため、暗色帯の層準まで調査がなかなか到達できていない。これが碓氷川流域における旧石器遺跡の少なさの原因である。

関東地方北西部の利根川水系の篠川や碓氷川、吾妻川などの各支流域は、黒曜石産地がある中部高地と多数の旧石器遺跡が残された関東平野とを結ぶ中継地として、旧石器時代の狩猟採集民が頻繁に往来し遺跡を残した場所であったと考えられる。実際、篠川流域では旧石器遺



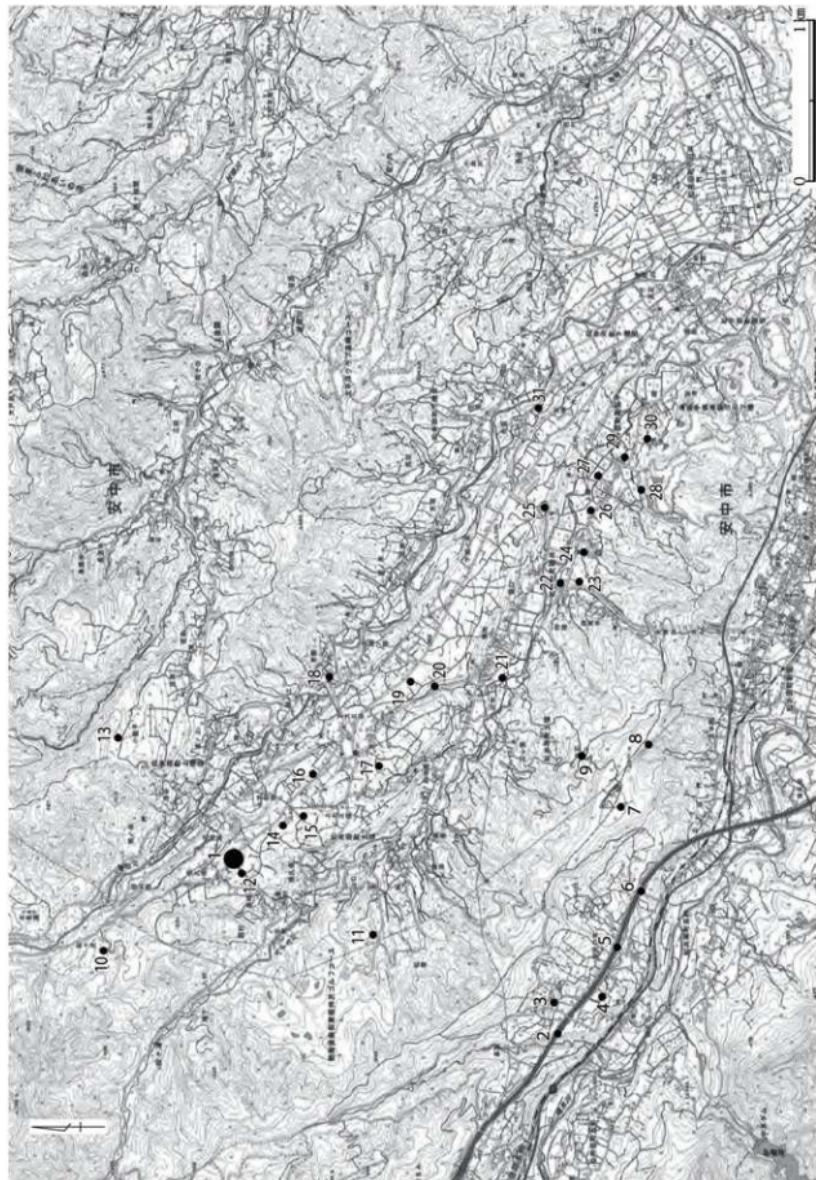
第5図 遺跡の周辺地形(遺跡● 国土地理院・陰影起伏図をもとに作成)



第6図 遺跡の立地地形(遺跡● 国土地理院・陰影起伏図をもとに作成)

跡が多数発見されている。本遺跡の周辺でも今後より深くローム層の調査が実施されれば、旧石器遺跡もおのずと発見されるはずである。新たな旧石器遺跡の発見のためには、困難だが旧石器遺跡調査への目的意識を持ってローム層をきちんと調査していくことである。

縄文時代では、多数の遺跡が分布し調査されている。本遺跡の南側には、土塙長久保遺跡、東側には土塙下原遺跡、土塙西大久保遺跡、上増田上細野原遺跡、土塙東



第7図 周辺地勢(国土地理院1/25000 53経井田H 9,10 54三ノ倉S記H 11 61南軒井田H 6,7 62松井田H 6,8を使用)

第2表 周辺遺跡一覧

No	遺跡名	時代	種別	備考
1	土塩中原遺跡	縄文・平安	集落	本報告の遺跡
2	五料植荷谷戸遺跡西地区	奈良・平安	集落	即松井田町遺跡調査団
3	五料植荷谷戸遺跡東地区	奈良・平安	集落	即松井田町遺跡調査団
4	臼井7号墳	古墳時代	円墳	
5	五料高墓	中世	板碑	
6	五料野ヶ久保遺跡	縄文・奈良・平安	集落	即松井田町遺跡調査団
7	新井白石遺跡	縄文	包蔵地	
8	松井田西城跡	中世	城館	
9	土塩白石遺跡	縄文	包蔵地	縄文中期
10	上増田板ヶ沢遺跡	縄文		S11加曾利B式小型コップ状土器
11	上塙山口遺跡	中世	板碑	
12	土塩長久保遺跡遺跡	縄文	包蔵地	縄文中期遺物多
13	上増田宮御・浅谷遺跡	縄文	包蔵地	縄文中期石器濃密分布
14	土塩下原遺跡	縄文	堅穴建物跡	即松井田町理蔵文化財調査会
15	土塩西大久保遺跡	縄文	包含層	縄文中期後葉土器・石器
16	上増田上福野原遺跡	縄文		S31加曾利B式土器
17	土塩東大久保遺跡	縄文		S33闇山式土器、S33加曾利E式土器
18	上増田引之内遺跡	中世	板碑	箇中所在、八都所在
19	新井上原遺跡	縄文		S32勝坂式土器出土
20	土塩畠中遺跡	縄文		S49甕之内式土器完形
21	土塩坊地遺跡	中世	板碑	建治4(1278)年の路
22	細野7号墳	古墳	帆立貝	
23	細野8号墳	古墳	円墳	
24	高梨子碓貝戸遺跡	弥生・奈良・平安	集落	
25	高梨子門戸遺跡	弥生	包蔵地	縄式土器
26	高梨子森下遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	集落	B20安中市教育委員会
27	高梨子柳下遺跡	奈良・平安	水田	B20安中市教育委員会As-B下水田
28	高梨子三次郎遺跡	縄文・古墳～平安	集落	B10松井田町理蔵文化財調査会
29	高梨子八木田遺跡	弥生～平安	包蔵地	
30	高梨子中貝戸遺跡	弥生～平安	包蔵地	
31	下増田天神原遺跡	縄文～平安	包蔵地	

大久保遺跡、土塩畠中遺跡、新井上原遺跡など、多数の縄文遺跡が分布しており、本遺跡一帯は縄文遺跡群を形成している可能性が考えられる。

碓氷川流域では、これまで多数の縄文遺跡が調査されている。例えば、左岸側では野村遺跡、右岸側では中野谷松原遺跡、天神原遺跡、新堀東源ヶ原遺跡、行田梅木平遺跡など大規模な遺跡が多数調査されている。本遺跡の周辺にもこのような大規模な縄文遺跡が存在していると考えられる。また、本遺跡の周辺では縄文時代の遺物包含層である黒色土が厚く堆積しているため、縄文遺跡は良好に残存している可能性が高い。

弥生時代では、高梨子碓貝戸遺跡、高梨子柄坂遺跡、高梨子八木田遺跡、高梨子中貝戸遺跡がある。

古墳時代から中世では、細野7号墳、細野8号墳などの古墳がある。また、高梨子森下遺跡、高梨子三次郎遺跡では古墳時代から平安時代の集落が調査され、高梨子柳下遺跡では平安時代のAs-B下水田が調査されている。中世の遺跡では、土塩山口遺跡、上増田引之内遺跡がある。

以上のように、本遺跡の周辺では多数の遺跡が分布している。とりわけ縄文遺跡が集中していることが特徴といえる。

第3節 基本土層(第8図)

基本土層について、模式的に示した。本遺跡の土層の特徴は、縄文時代の遺物包含層であるVI層(黒色土層)が厚く堆積していること、As-B降灰に伴う烟の復旧により天地返しされた土層(IV層・V層)が調査区の広範囲で確認されたことである。

なお、浅間A軽石(As-A(III層))は部分的に一次堆積層が確認された。As-Bの一次堆積層は復旧坑により攪拌されたため、確認できなかった。また、浅間C軽石(As-C)の一次堆積層は確認できなかった。

I層 黒褐色土層(10YR2/2) 表土で現在の耕作土である。As-Aを多量に含む。

II層 黒褐色土層(10YR2/2) As-Aを多量に含む。黒色土ブロックを少量含む。

III層 にぶい黄褐色火山灰層(10YR5/3) As-Aの一次堆積層である。部分的に堆積していた程度である。

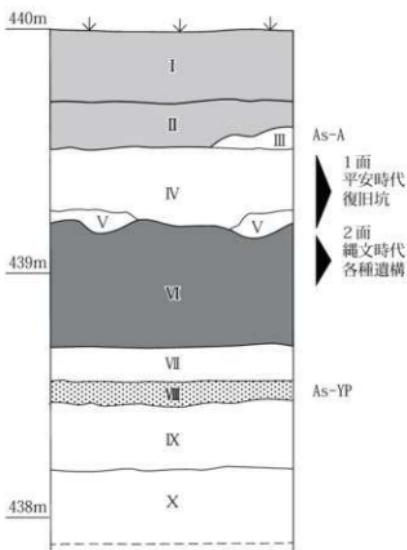
IV層 黒色土層(10YR2/1) As-Bを多量に含む黒色土である。As-B降灰に伴う復旧坑の天地返しされたAs-B混土層で、復旧後の耕作土である。

V層 褐色土層(10YR4/6) As-B純層である。As-B降灰に伴う復旧坑の天地返しされた土層で、復旧坑の底面で部分的に検出された。なお、As-B純層とは天地返しにより人為的に埋め戻された純度の高いAs-Bのことであり、一次堆積層ではない。As-Bは、降灰当時には厚く一次堆積したと推定されるが、復旧坑により攪拌されたため、調査範囲内では一次堆積層で確認できなかった。

VI層 黒色土層(10YR2/2) 黄色軽石・白色軽石を全体的に含む。上半部の点在する白色軽石はAs-Cの可能性が考えられる。縄文時代の遺物包含層で厚く堆積し、場所によっては70cmを超える堆積も見られた。縄文時代の遺構構築時の生活面は本層中に存在していたと考えられる。

VII層 褐灰色土層(10YR4/1) 漸移層である。

VIII層 明黄褐色火山灰層(10YR6/6) As-YPの一次堆積層である。1区・2区で部分的に検出された。層厚は概ね10cmで径5~30mmの粗粒のテフラを主体としていた。



第8図 基本土層($S = 1/20$)

IX層 灰黄褐色ローム層(10YR4/2) VIII層のAs-YPが点在する。

X層 明黄褐色ローム層(10YR6/8) 本層上面より約30cm下位までのロームの堆積を確認した。

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 概要(第1・3表)

検出された遺構は、縄文時代の遺構と平安時代から中世の遺構である。

遺物は、遺物収納コンテナ箱2箱が出土した。大部分の遺物が縄文土器で、ほかに縄文石器が少量であった。このほか、遺構外から古代以降の土師器の小破片が1点、近世以降の陶磁器の小破片が6点出土した。これらの遺物は小破片であるため、掲載遺物から除外した。また、1区2号復旧坑から鉄製品が2点出土した。鉄製品はいずれも釘と推定されるが、復旧坑に伴うものではなく近世以降の混入の可能性が高く、しかも小破片であることから掲載遺物から除外した。

第3表 検出された遺構

時代	遺物集中	土坑	ピット	復旧坑	総計
縄文	1	16	32	49	
平安			5	5	
中世			1	1	
総計	1	16	32	6	55

第2節 縄文時代の遺構と遺物

(1) 遺構(第3表、第10図)

検出された縄文時代の遺構は、遺物集中1か所、土坑16基、ピット32基であった。

(2) 遺物(第4～7表、第9図)

出土した縄文時代の遺物は、縄文土器計590点、縄文石器計33点であった。動物・植物遺存体などの有機質遺物は検出されなかった。

① 縄文土器(第4表・第9図、遺物観察表)

出土した縄文土器について、小破片を含め全点を対象として遺構ごとに型式別に分類し、接合と補強・復元作業を行い、型式別に点数を集計した。接合後の合計が計590点である。なお、点数は接合後の破片を集計したものであり、個体数を示したものではない。破片の点数で

あっても、土器型式から遺跡形成時期やその時間幅、変遷過程を推定するためには有効である。また、掲載遺物を抽出して実測・トレース作業を行い、属性を遺物観察表に記載した。掲載遺物は計74点とした。

縄文土器は、黒浜式・有尾式、黒浜・有尾式、諸磯a式、諸磯b式に型式分類した。諸磯c式は確認できなかつた。なお、前期中葉の土器のうち黒浜式もしくは有尾式であるものの、どちらか判定できない土器については、黒浜・有尾式と表記。型式判定が明確にできないものの前期後葉の時期に相当する土器については、前期後葉と表記。縄文土器であるが型式判定ができない土器については、不明と表記した。

土器型式別の点数は、黒浜式2点、有尾式4点、黒浜・有尾式208点、諸磯a式296点、諸磯b式51点、前期後葉26点、不明3点であった。諸磯a式が約半分を占め、次いで黒浜・有尾式が多く、両者で出土した土器の80%以上を占めていた。

遺構別の点数は、1号遺物集中が342点で半分以上を占めていた。2号土坑からは23点が出土したが、ほかの土坑やピットからの出土点数は少なかった。このほか、1区遺構外で166点、2区遺構外で13点、3区遺構外で2点が一括回収された。土器は1区でまとまって出土しており、1区に縄文時代の遺物分布の中心があった可能性が考えられる。

このように出土した縄文土器は、前期中葉の黒浜式から前期後葉の諸磯b式までのものであることが判明し、遺跡形成の時間幅はこの土器型式の範囲内にあるといえる。このうち諸磯a式が最も多いことから、諸磯a式の時期に遺跡形成のピークがあつたと推測される。

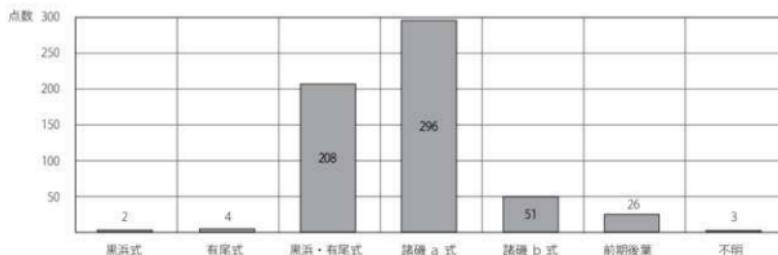
早期や中期、後期、晚期の遺物は検出されなかつたため、本遺跡は前期中葉から後葉の時期に限定された縄文時代の遺跡であるといえる。

② 縄文石器(第5～7表、遺物観察表、石器一覧表)

出土した縄文石器計33点について、遺構別に器種分類と石材同定を行い、点数と重量を集計した。また、器種分類で、石礫や二次加工剥片、磨石など、ツールと器種

第4表 繩文土器集計表(遺構別・土器型式別)

遺構番号	黒浜式	有尾式	黒浜・有尾式	諸磯a式	諸磯b式	前期後葉	不明	総計
1号遺物集中		3	124	178	33	4		342
1号土坑			2			2		4
2号土坑			8	11		4		23
8号土坑			3			1		4
11号土坑			1	2				3
16号土坑			3	2				5
3号ピット			1	8		4		13
4号ピット			4	1				5
5号ピット			1	1				2
16号ピット			2	2				4
22号ピット			1					1
30号ピット				2				2
31号ピット						1		1
1区遺構外	1	1	53	85	18	7	1	166
2区遺構外		1	5	4		2	1	13
3区遺構外						1	1	2
総計	2	4	208	296	51	26	3	590



第9図 繩文土器型式別点数グラフ

判定した石器については掲載遺物だけでなく、全点を対象として属性(出土位置、石材、長さ・幅・厚さ・重量、特徴等)を観察し石器一覧表に記載した。剥片については、遺構別に石材同定し、石材別に点数を集計した。重量については石材別にまとめて計量した。

器種別にみると、計33点のうち、石鏃2点、二次加工剥片4点、原石(黒曜石製)2点、剥片21点、凹石3点、敲石1点であった。掲載遺物はこのうち計8点とした。

縄文石器は、縄文土器と同一時期のもので、黒浜式、有尾式から諸磯b式土器に共伴する石器と考えられる。

(3) 遺物集中(第10~13図)

1区で遺物集中が1か所検出された。

1号遺物集中(第11~13図、PL. 4・14・15)

調査区 1区

座標値 X=39784~3978 Y=-95422~-95426

規模 長さ: 4.5m 幅: 2.5m(調査区外) 深さ: 20cm
分布範囲は調査区外に広がるため詳細不明である。南側で集中度がやや高くなる。

重複 1・2・3号ピット

第3章 検出された遺構と遺物

第5表 繩文石器集計表(遺構別・器種別点数)

遺構番号	石鏃	二次加工剥片	原石	剥片	門石	敲石	総計
1号遺物集中	1			1	3		5
2号土坑		1	1				2
4号土坑				1			1
6号土坑		1					1
7号土坑				1			1
8号土坑		1					1
3号ピット				1			1
31号ピット				1			1
1区遺構外	1	1	1	8	1		12
2区遺構外				6			6
3区遺構外				2			2
総計	2	4	2	21	3	1	33

第6表 繩文石器集計表(器種別・石材別点数)

器種	黒曜石	黒色安山岩	珪質頁岩	黒色頁岩	花崗岩	細粒輝石 安山岩	粗粒輝石 安山岩	溶結凝灰岩	流紋岩	総計
石鏃	2									2
二次加工剥片	1	1	1	1						4
剥片	9			4		6		1	1	21
原石	2									2
門石					1		1	1		3
敲石							1			1
総計	14	1	1	5	1	6	2	2	1	33

第7表 繩文石器集計表(器種別・石材別重量)

器種	黒曜石	黒色安山岩	珪質頁岩	黒色頁岩	花崗岩	細粒輝石 安山岩	粗粒輝石 安山岩	溶結凝灰岩	流紋岩	総計
石鏃	1.2									1.2
二次加工剥片	1.9	64.2	22.3	21.4						109.8
剥片	18.3			65.3		157.6		9.2	0.9	251.3
原石	11.5									11.5
門石					333.4		499.0	383.1		1215.5
敲石							170.2			170.2
総計	32.9	64.2	22.3	86.7	333.4	157.6	669.2	392.3	0.9	1759.5

出土遺物 土器：計342点(有尾式3点、黒浜・有尾式124点、諸磯a式178点、諸磯b式33点、前期後葉4点)、石器計5点(石鏃1点、剥片1点、四石3点)。土器が比較的多く出土した一方で、石器は少なく特に剥片はわずか1点だけであった。

有尾式土器は、地文のRL縄文に横位平行沈線を施したもの、連続爪形文を施したものがあり、いずれも胎土に織維を含んでいた。

黒浜・有尾式土器は、LR・RL縄文を羽状施したもの、LR縄文を横位施したもの、RL縄文を横位施したもの、附加条1種LRとL縄文を横位施したものがあり、いずれも胎土に織維を含んでいた。

諸磯a式土器は、0段多条LR縄文を横位施したもの、横位・波状条線を多段に施したもの、RL縄文を横位施したものがあった。

諸磯b式土器は、連続爪形文による菱形状モチーフを施したもの、地文にRL縄文を横位施し複数条の浮線をめぐらしたものがあった。

石鏃は、黒曜石製の凹基無莖鏃で右脚端部を欠損する。剥片は、黒曜石製で背面に礫面を大きく残し、素材が小型角礫(ズリ)であったことを示す。

凹石は、粗粒輝石安山岩・溶結凝灰岩・花崗岩製で、3点とも長さ・幅・厚さがほぼ同じ大きさで、偏平な梢円礫を素材とし、対向する表裏両面の中央部に凹みを持つ。また、43・45は表裏両面に顕著な摩耗痕が認められ、44は右側面が平坦化した顕著な敲打痕が認められた。これらの凹石は素材礫の形状や大きさが同じであることから、共通した機能を有する石器で手に持て堅果類の加工に利用したと考えられる。また、凹みや摩耗痕、敲打痕など複合した使用痕を持っており、対象物を擦る、擦くなどいくつかの用途に利用されたと考えられる。なお、石皿や台石は確認できなかった。

所見 1号遺物集中は、縄文時代前期中葉の有尾式土器から前期後葉の諸磯a式・諸磯b式土器と石器で構成される。このうち諸磯a式土器が主体となる。前期中葉から前期後葉の時期に土器や石器の廃棄によって形成された遺物集中と考えられる。

また、遺物垂直分布の下部付近に当時の生活面が想定される。遺物は表土の下に厚く堆積した地山の黒色土(VI層)から検出され、4.5mほどの範囲にまとまっていた。

配石や集石、炉などの遺構は確認できなかった。

平面分布をみると、南側で集中度がやや高くなる。垂直分布をみると、30cmほどの範囲内から出土しているが、重複した3号ピットの側面にも1号遺物集中の遺物がかかるており、まだ下位にも遺物が続く可能性を示す。このことから、1号遺物集中は当時の生活面に形成された遺物分布であることを示すだけでなく、縄文時代の竪穴建物の覆土の中に形成された遺物分布であった可能性も示すと考えられる。

(4) 土坑(第10・14・15図)

土坑は1区から7基、2区から9基の計16基が検出された。3区からは検出されなかった。

1号土坑(第14図、PL.15)

調査区 1区

座標値 X=39784 Y=-95421・-95422

平面形状 円形 断面形状 捕鉢状

規模 長さ：48cm 幅：48cm 深さ：20cm

重複 なし

出土遺物 土器：4点(黒浜・有尾式2点、前期後葉2点)、石器：なし

所見 覆土の堆積状況や含有物、掘り込みが浅いことから、1号土坑は人為的な土坑ではなく自然地形の可能性がある。

2号土坑(第14図、PL. 5・15)

調査区 1区

座標値 X=39792・39793 Y=-95429・-95430

平面形状 円形 断面形状 捕鉢状

規模 長さ：110cm 幅：79cm(調査区外) 深さ：34cm

重複 なし

出土遺物 土器：23点(黒浜・有尾式8点、諸磯a式11点、前期後葉4点)、石器：2点(二次加工剥片1点、黒曜石製原石(ズリ)1点)

黒浜・有尾式土器は口縁部破片でLR縄文を横位施したもの、諸磯a式土器は口縁部破片と胴部破片でRL縄文を横位施したものであった。

原石は、黒曜石製の小型角礫(ズリ)であった。

所見 掘り込みの深い土坑である。土坑底面から、黒浜・

第3章 検出された遺構と遺物

有尾式、諸磯a式、前期後葉の土器と石器が出土した。
前期中葉から後葉の土坑と考えられる。

3号土坑(第14図、PL. 5)

調査区 1区

座標値 X=39765・39766 Y=-95405・-95406

平面形状 不明 断面形状皿状

規模 長さ：103cm(調査区外) 幅：37cm(調査区外)

深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 土坑の半分近くが調査区外のため詳細不明。覆土の堆積状況や掘り込みが浅いことから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

4号土坑(第14図、PL. 5)

調査区 1区

座標値 X=39772・39773 Y=-95411・-95412

平面形状 円形 断面形状 筒状

規模 長さ：70cm 幅：35cm(調査区外) 深さ：23cm

重複 なし 出土遺物 石器：1点(剥片1点)

所見 円形・筒状を呈する土坑である。掘り込みは浅い。

5号土坑(第14図、PL. 5)

調査区 1区

座標値 X=39775・39776 Y=-95415

平面形状 不整形 断面形状皿状

規模 長さ：46cm(調査区外) 幅：46cm 深さ：16cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 平面形状が不整形を呈し、掘り込みも浅いことから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

6号土坑(第14図、PL. 5)

調査区 1区

座標値 X=39809 Y=-95443

平面形状 楕円形 断面形状皿状

規模 長さ：71cm 幅：53cm 深さ：17cm

重複 なし 出土遺物 石器1点(二次加工剥片1点)

所見 楕円形・皿状を呈する土坑である。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

7号土坑(第14図、PL. 5)

調査区 1区

座標値 X=39813・39814 Y=-95445・-95446

平面形状 円形 断面形状皿状

規模 長さ：114cm 幅：48cm(調査区外) 深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 石器：1点(剥片1点)

所見 円形・皿状を呈する土坑である。半分が調査区外のため詳細不明。掘り込みが浅く、底面もやや不整形であるため人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

8号土坑(第14図、PL. 5・6・16)

調査区 2区

座標値 X=39833・39834 Y=-95466・-95467

平面形状 不明 断面形状 不明

規模 長さ：95cm(調査区外) 幅：56cm(調査区外)

深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 土器4点(黒浜・有尾式3点、前期後葉1点)、石器：1点(二次加工剥片1点)

所見 大部分が調査区外のため詳細不明。黒浜・有尾式、前期後葉の土器が出土したが、掘り込みが浅く底面もやや不整形であるため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

9号土坑(第15図、PL. 6)

調査区 2区

座標値 X=39833 Y=-95467

平面形状 円形 断面形状皿状

規模 長さ：70cm 幅：65cm 深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・皿状を呈する土坑である。

10号土坑(第15図、PL. 6)

調査区 2区

座標値 X=39834・39835 Y=-95467・-95468

平面形状 長楕円形 断面形状皿状

規模 長さ：140cm 幅：53cm 深さ：17cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 長楕円形を呈する土坑である。掘り込みが浅く底面も不整形であることから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

11号土坑(第15図、PL. 6・16)

調査区 2区

座標値 X=39837・39838 Y=-95472

平面形状 楕円形 断面形状 揃鉢状

規模 長さ：74cm 幅：58cm 深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 土器：3点(黒浜・有尾式3点)、石器：なし

所見 円形・皿状を呈し、掘り込みの浅い土坑である。黒浜・有尾式土器が出土した。

12号土坑(第15図、PL. 6)

調査区 2区

座標値 X=39840・39841 Y=-95475・-95476

平面形状 楕円形 断面形状 揃鉢状

規模 長さ：70cm 幅：67cm 深さ：14cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・皿状を呈し掘り込みの浅い土坑である。

13号土坑(第15図、PL. 6)

調査区 2区

座標値 X=39841・39842 Y=-95476

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ：62cm 幅：62cm 深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・皿状を呈する掘り込みの浅い土坑で、底面は不整形であることから、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡の可能性がある。

14号土坑(第15図、PL. 6)

調査区 2区

座標値 X=39844 Y=-95479

平面形状 楕円形 断面形状 揃鉢状

規模 長さ：76cm 幅：63cm 深さ：21cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・皿状を呈する掘り込みの浅い土坑である。

15号土坑(第15図、PL. 6)

調査区 2区

座標値 X=39845 Y=-95480・-95481

平面形状 円形 断面形状 簡状

規模 長さ：54cm 幅：51cm 深さ：30cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・簡状を呈する土坑で、ほかの土坑に比べ掘り込みはやや深い。

16号土坑(第15図、PL. 7・16)

調査区 2区

座標値 X=39846 Y=-95480・-95481

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ：84cm 幅：44cm(調査区外) 深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 土器：5点(黒浜・有尾式3点、諸磯a式2点)、石器：なし

所見 半分が調査区外のため詳細不明であるが、円形・皿状を呈する土坑と推測される。黒浜・有尾式、諸磯a式土器が出土した。底面が不整形で掘り込みも浅いことから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

(5) ピット(第10・16・17図)

ピットは1区から22基、2区から10基の計32基が検出された。

1号ピット 欠番

2号ピット(第16・17図、PL. 7)

調査区 1区

座標値 X=39785・39786 Y=-95424

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ：29cm 幅：24cm 深さ：16cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 掘り込みの浅いピットで、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。また、覆土の含有物等からみて古代以降の可能性もある。

3号ピット(第16図、PL. 7・16)

調査区 1区

座標値 X=39786 Y=-95424・-95425

平面形状 円形 断面形状 揃鉢状

規模 長さ：51cm 幅：51cm 深さ：21cm

重複 1号遺物集中 出土遺物 土器13点(黒浜・有尾式1点、諸磯a式8点、前期後葉4点)、石器：1点(剥片)

第3章 検出された遺構と遺物

諸磯a式土器は、いずれも胴部破片でRL縄文を横位施文したものであった。

所見 円形・擂鉢状を呈するピットである。1号遺物集中を切って構築される。ピットの側面や底面には1号遺物集中に帰属する遺物が出土している。また、覆土から回収された遺物は1号遺物集中にもともと帰属していた遺物の可能性がある。

4号ピット(第16図、PL. 7・16)

調査区 1区

座標値 X=39789 Y=-95425～-95426

平面形状 楕円形 断面形状 擂鉢状

規模 長さ：35cm 幅：31cm 深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 土器：5点(黒浜・有尾式4点、諸磯a式1点)、石器：なし

所見 円形・擂鉢状を呈するピットである。

5号ピット(第16図、PL. 7)

調査区 1区

座標値 X=39795 Y=-95431

平面形状 円形 断面形状 筒状

規模 長さ：46cm 幅：46cm 深さ：32cm

重複 なし 出土遺物 土器2点(黒浜・有尾式1点、諸磯a式1点)、石器：なし

所見 円形・筒状を呈するピットである。黒浜・有尾式、諸磯a式の土器が出土した。南側に6号ピットが隣接する。5号ピットと6号ピットは規模・深さがほぼ同じである。

6号ピット(第16図、PL. 7)

調査区 1区

座標値 X=39796 Y=-95431

平面形状 楕円形 断面形状 筒状

規模 長さ：48cm 幅：41cm 深さ：26cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・筒状を呈するピットである。北側に5号ピットが隣接する。6号ピットと5号ピットは規模・深さがほぼ同じである。

7号ピット(第16図、PL. 7)

調査区 1区

座標値 X=39799 Y=-95435

平面形状 円形 断面形状 畦状

規模 長さ：43cm 幅：41cm 深さ：18cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・畠状を呈するピットであるが、掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

8号ピット(第16図、PL. 8)

調査区 1区

座標値 X=39763 Y=-95403

平面形状 楕円形 断面形状 筒状

規模 長さ：24cm 幅：17cm 深さ：37cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・筒状を呈するピットで、掘り込みはほかのピットよりも深い。やや斜めに掘り込まれているため、木根の痕跡の可能性もある。

9号ピット(第16図、PL. 8)

調査区 1区

座標値 X=39564・39565 Y=-95405

平面形状 円形 断面形状 畠状

規模 長さ：35cm 幅：32cm 深さ：11cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・畠状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

10号ピット(第16図、PL. 8)

調査区 1区

座標値 X=39766 Y=-95406・-95407

平面形状 楕円形 断面形状 擂鉢状

規模 長さ：35cm 幅：25cm 深さ：16cm

重複 11号ピット 出土遺物 なし

所見 円形・擂鉢状を呈するピットで、11号ピットを切る。掘り込みは11号ピットと同じで浅いため、両ピットとともに人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

11号ピット(第16図、PL. 8)

調査区 1区

座標値 X=39766 Y=-95407

平面形状 楕円形 **断面形状** 凹状

規模 長さ：33cm 幅：21cm 深さ：13cm

重複 10号ピット **出土遺物** なし

所見 円形・播鉢状を呈するピットで、10号ピットに切られる。掘り込みは10号ピットと同じで浅いため、両ピットとともに人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

12号ピット(第16図、PL. 8)

調査区 1区

座標値 X=39769・39670 Y=-95409・-95410

平面形状 円形 **断面形状** 凹状

規模 長さ：40cm 幅：40cm 深さ：16cm

重複 なし **出土遺物** なし

所見 円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

13号ピット(第16図、PL. 8)

調査区 1区

座標値 X=39771・39772 Y=-95411

平面形状 楕円形 **断面形状** 播鉢状

規模 長さ：36cm 幅：28cm(調査区外) 深さ：21cm

重複 なし **出土遺物** なし

所見 楕円形・播鉢状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

14号ピット(第16図、PL. 8)

調査区 1区

座標値 X=39771 Y=-95411・-95412

平面形状 円形 **断面形状** 播鉢状

規模 長さ：52cm 幅：29cm(調査区外) 深さ：16cm

重複 なし **出土遺物** なし

所見 円形・播鉢状を呈するピットであるが、半分近くが調査区外のため詳細不明である。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく、自然地形の可能性がある。

15号ピット(第16図、PL. 8)

調査区 1区

座標値 X=39776 Y=-95414・-95415

平面形状 楕円形 **断面形状** 播鉢状

規模 長さ：30cm(調査区外) 幅：22cm 深さ：12cm

重複 なし **出土遺物** なし

所見 掘り込みの浅いピットであるため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

16号ピット(第16図、PL. 9)

調査区 1区

座標値 X=39774 Y=-95414

平面形状 円形 **断面形状** 播鉢状

規模 長さ：46cm 幅：21cm(調査区外) 深さ：13cm

重複 なし **出土遺物** なし

所見 円形・播鉢状を呈するピットで、半分は調査区外である。覆土の含有物をみると、縄文時代ではなく新しい時代の遺構の可能性がある。

17号ピット(第17図、PL. 9)

調査区 1区

座標値 X=39801 Y=-95442

平面形状 円形 **断面形状** 皿状

規模 長さ：47cm 幅：45cm 深さ：12cm

重複 なし **出土遺物** なし

所見 円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

18号ピット(第17図、PL. 9)

調査区 1区

座標値 X=39801 Y=-95442

平面形状 円形 **断面形状** 皿状

規模 長さ：47cm 幅：45cm(調査区外) 深さ：12cm

重複 なし **出土遺物** なし

所見 円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

19号ピット(第17図、PL. 9)

調査区 1区

座標値 X=39807・39808 Y=-95442

平面形状 円形 **断面形状** 播鉢状

規模 長さ：57cm 幅：46cm 深さ：14cm

重複 なし **出土遺物** なし

第3章 検出された遺構と遺物

所見 円形・擂鉢状を呈するピットである。東側に20号ピットが隣接する。19号・20号ともに掘り込みの深さは同じで浅い。

20号ピット(第17図、PL. 9)

調査区 1区

座標値 X=39807 Y=-95441・-95442

平面形状 円形 断面形状 擾鉢状

規模 長さ: 52cm 幅: 45cm 深さ: 24cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・擂鉢状を呈するピットである。西側に19号ピットが隣接する。底面が不整形を呈することから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

21号ピット(第17図、PL. 9)

調査区 1区

座標値 X=39808・39809 Y=-95443・-9444

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ: 55cm 幅: 40cm 深さ: 8cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 楕円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

22号ピット(第17図、PL. 9)

調査区 1区

座標値 X=39811・39812 Y=-95444・-95445

平面形状 楕円形 断面形状 擾鉢状

規模 長さ: 41cm 幅: 26cm 深さ: 16cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 楕円形・擂鉢状を呈するピットである。

23号ピット(第17図、PL. 9・10)

調査区 1区

座標値 X=39813 Y=-95446

平面形状 楕円形 断面形状 擾鉢状

規模 長さ: 52cm 幅: 42cm 深さ: 18cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 楕円形・擂鉢状を呈するピットである。

24号ピット(第17図、PL. 10)

調査区 2区

座標値 X=39834 Y=-95468・-95469

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ: 54cm 幅: 40cm 深さ: 13cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 楕円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

25号ピット(第17図、PL. 10)

調査区 2区

座標値 X=39835 Y=-95469

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ: 41cm 幅: 34cm 深さ: 14cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 楕円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

26号ピット(第17図、PL. 10)

調査区 2区

座標値 X=39836 Y=-95469・-95470

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ: 45cm 幅: 36cm 深さ: 18cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

27号ピット(第17図、PL. 10)

調査区 2区

座標値 X=39837 Y=-95472・-95473

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ: 46cm 幅: 36cm 深さ: 13cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 楕円形・皿状を呈するピットである。西側に28号ピットが隣接する。27号・28号ピットの掘り込みの深さと覆土はほぼ同じで、掘り込みも浅いため、二つのピットは人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

28号ピット(第17図、PL. 10)

調査区 2区

座標値 X=39837・39838 Y=-95473

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ：45cm 幅：36cm 深さ：15cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 楕円形・皿状を呈するピットである。東側に27号

ピットが隣接する。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

29号ピット(第17図、PL.10)

調査区 2区

座標値 X=39839 Y=-95473・-95474

平面形状 楕円形 断面形状 捜鉢状

規模 長さ：43cm 幅：29cm 深さ：21cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 楕円形・捲鉢状を呈するピットである。

30号ピット(第17図、PL.10・11)

調査区 2区

座標値 X=39839・39840 Y=-95474

平面形状 円形 断面形状 捜鉢状

規模 長さ：55cm 幅：55cm 深さ：20cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・皿状を呈するピットである。

31号ピット(第17図、PL.11)

調査区 2区

座標値 X=39845 Y=-95480

平面形状 楕円形 断面形状 捜鉢状

規模 長さ：35cm 幅：28cm 深さ：10cm

重複 なし 出土遺物 石器：1点(剥片1点)

所見 楕円形・捲鉢状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

32号ピット(第17図、PL.11)

調査区 2区

座標値 X=39845 Y=-95480

平面形状 円形 断面形状 捜鉢状

規模 長さ：25cm 幅：24cm 深さ：10cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・捲鉢状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

33号ピット(第17図、PL.11)

調査区 2区

座標値 X=39844・39845 Y=-95480

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ：44cm 幅：37cm 深さ：10cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

(6) 遺構外出土遺物(第18図、第4～7表)

土器については、1区で計166点、2区で計13点、3区で計2点の合計181点を回収した。土器型式は、黒浜式、有尾式、黒浜・有尾式、諸磯a式、諸磯b式、前期後葉、不明である。このうち、諸磯a式が最も多かった。

黒浜式土器は、口縁部下位にコンバス文を施文したものがあった。

有尾式土器は、波状口縁で連続爪形文を施文したものがあった。

黒浜・有尾式土器は、LR・RL繩文を羽状施文したもの、附加条1種RL+r繩文を横位施文したもの、平行沈線をめぐらしたものがあった。

諸磯a式土器は、波状口縁で連続爪形文を複数段施文したもの、RL繩文を地文とし円形竹管刺突を縦位に施文したもの、RL繩文を横位施文し口縁に小突起を付したもの、RL繩文を横位施文したものなどがあった。

諸磯b式土器は、連続爪形文を縦位と渦巻状に施文したもの、RL繩文を地文とし複数条の浮線を横位にめぐらしたもの、平行沈線による斜格子目文を施文したものなどがあった。

石器については、1区で計12点、2区で計6点、3区で計2点の合計20点を回収した。

石器は黒曜石製で長脚の凹基無茎箇、原石は黒曜石製の小型角礫(ズリ)が確認された。

第3節 平安時代以降の遺構と遺物

(1)概要(第1・3表)

検出された平安時代以降の遺構は、復旧坑が計6基である。ほかに遺構は検出されなかった。6基のうち、5基が平安時代、1基が中世と判定した。

遺物は、遺構外から土器類の小破片が1点、陶磁器の小破片が6点出土した。これらはいずれも小破片である。ほかに、1区2号復旧坑から釘と推定される鉄製品の小破片が2点出土した。2点とも復旧坑に共伴するものではなく、近世以降の混入品の可能性が高い。これらの遺物は掲載対象から除外した。

(2)復旧坑の概要

本遺跡で検出された復旧坑とは、As-Bによって埋没した烟を復旧させるために、溝状の穴を掘って火山灰(As-B)と黒色土(耕作土)を天地返しした遺構のことである。形成時期は、1108年のAs-B降灰直後で、平安時代終わり頃と考えられる。

復旧坑は、1区で未検出部分があるものの今回の調査範囲(長さ約230m)の広範囲から検出された。したがって、As-B降灰当時には大規模な烟が存在し、As-B降灰での烟が被災しても復旧していたといえる。

(3)復旧坑の形成時期

復旧坑の形成時期については、1号復旧坑と3～6号復旧坑は同一時期で、As-B降灰(1108年)直後の平安時代終わり頃に形成されたものと考えられる。一方、2号復旧坑は3号復旧坑を切るために3号復旧坑よりも新しい。詳細な時期については、共伴遺物がなかったため不明であるが、平安時代の終わり頃以降から中世の間と推定され、覆土から中世の可能性が高いと判断した。

(4)復旧坑の形成過程

復旧坑の形成過程には次のような段階を考えられる。

- ①まず当時の烟の地表面を覆ったAs-Bを部分的に除去する → ②次に溝状の穴を掘ってAs-B直下の黒色土(もとの烟の耕作土(VI層))を採掘する → ③次に溝状の穴の中にAs-B(As-B純層(V層))を埋め、その上に黒

色土を埋め戻す。この時の黒色土は採掘の際にAs-Bが混ざったAs-B混土層(IV層・IV'層)になっている。

この結果、溝状の穴の中の土層には、下がAs-B純層、上がAs-B混土層の堆積となり、火山灰と耕作土の天地が入れ替わった状態になる。このAs-B混土層が復旧後の烟の耕作土である。なお、As-B純層とは天地返しにより人为的に埋め戻された純度の高いAs-Bのことであり、一次堆積層ではない。

また、3号復旧坑の底面にみられた複雑な凹凸面は復旧坑の穴を掘ったときの掘り方である。凹凸の深さは、多少の違いがあるがほぼ同じ深さであり、一定の深さを意図して黒色土を掘ったといえる。

(5)復旧坑(第19～24図)

次に、検出された各復旧坑について示す。なお、規模の項目で示した数値は調査範囲内で計測できた数値を示したものである。

1号復旧坑(第20図、PL.12)

調査区 1区

座標値 X=39761～39777 Y=-95402～-95416

規模 長さ：19.76m 幅：1.08m 深さ：16cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 長さ19.76m・幅1.08mの範囲で検出された。調査範囲が限定的であったため、復旧坑全体の規模は不明である。復旧坑の底面は複数の溝状の穴の掘り方が連なったものである。溝状の穴は北東方向から南西方向に延びるものである。

土層堆積は、IV層・IV'層・V'層が埋め戻された耕作土である。V層(As-B純層)はAs-Bの純度が高いものの、埋め戻された二次堆積のテフラで一次堆積層ではない。また、V層が復旧坑の底面にわずかしか残存していないのは、次々と溝状の穴を掘ったときに切られていったからである。IV層は平面的に広く堆積し、これが復旧後の耕作土である。IV'層は西側を切るように東側に向かってブロック状に堆積している。

この土層堆積から、1号復旧坑は西側から東側方向に向かって次々と掘られたことがわかる。地形は西から東に向かって傾斜しているので、標高の高い西側から低い東側に向かって復旧坑を掘っていき天地返ししたと考え

られる。

2号復旧坑(第21図、PL.12)

調査区 1区

座標値 X=39801～39817 Y=-95436～-95450

規模 長さ：18.52m 幅：2.68m 深さ：73cm

3号復旧坑と重複し、規模は3号復旧坑の範囲とした。

重複 3号復旧坑 出土遺物 なし

所見 2号復旧坑は、同一方向に並走して掘られた複数の溝状の穴からなる。復旧坑というよりも耕作に伴う溝の可能性がある。3号復旧坑を切るため、3号復旧坑よりも新しく、切り合い関係や土層堆積から中世と推定した。ただし、共伴遺物がないため詳細な時期については判定できなかった。

3号復旧坑(第21図、PL.13)

調査区 1区

座標値 X=39801～39817 Y=-95436～-95450

規模 長さ：18.52m 幅：2.68m 深さ：15cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 溝状に掘られた復旧坑である。底面の凹凸が著しい。溝状の穴は北東から南東方向に掘られているが、東半部では北から南方向へと向きが変化する。1号復旧坑のブロック状の土層堆積とは違って平面的な土層堆積を示し、埋め戻されたAs-B純層が底面直上に平面的に堆積していた。3号復旧坑は、1号復旧坑のように溝状の穴を連続的に掘ったものではなく、ある程度平面的に広く掘ってから耕作土を入れ替えた天地返してあった可能性が考えられる。

4号復旧坑(第22図、PL.13)

調査区 2区

座標値 X=39831～39848 Y=-95465～-95482

規模 長さ：23.12m 幅：1.96m 深さ：15cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 溝状に掘られた復旧坑である。溝状の穴はほぼ等間隔で掘られ、底面の凹凸が著しい。

V層(As-B純層)とIV層(As-B混土層)は平面的に広く堆積しており、1号復旧坑で確認された同一方向に順序良く切りあい関係を持つ溝状の堆積状況とは異なっている。

た。なお、V層は埋め戻されたAs-Bで、一次堆積層ではない。

4号復旧坑は、ある程度の広い範囲を平面的に掘ってから黒色土を採掘し、その後V層をまず埋め戻し次にIV層を埋め戻して、天地返ししたと推測される。

5号復旧坑(第23図、PL.13)

調査区 2区

座標値 X=39852～39893 Y=-95487～-95534

規模 長さ：61.6m 幅：1.5m 深さ：18cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 溝状に掘られた復旧坑である。底面の凹凸が著しい。土層堆積の記録と観察は部分的であったが、基本的に3号復旧坑と同じ方法で天地返しした復旧坑と推測される。

6号復旧坑(第24図、PL.13)

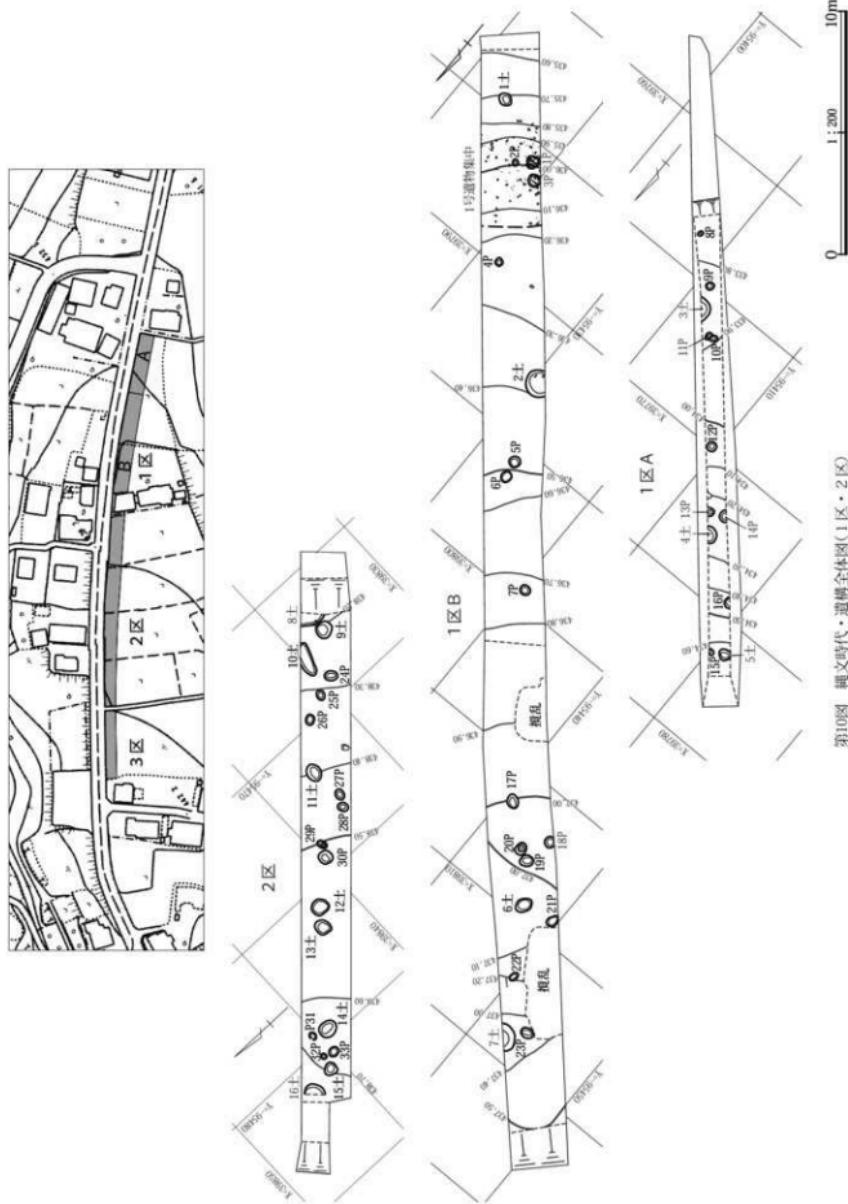
調査区 3区

座標値 X=39896～39915 Y=-95538～-95562

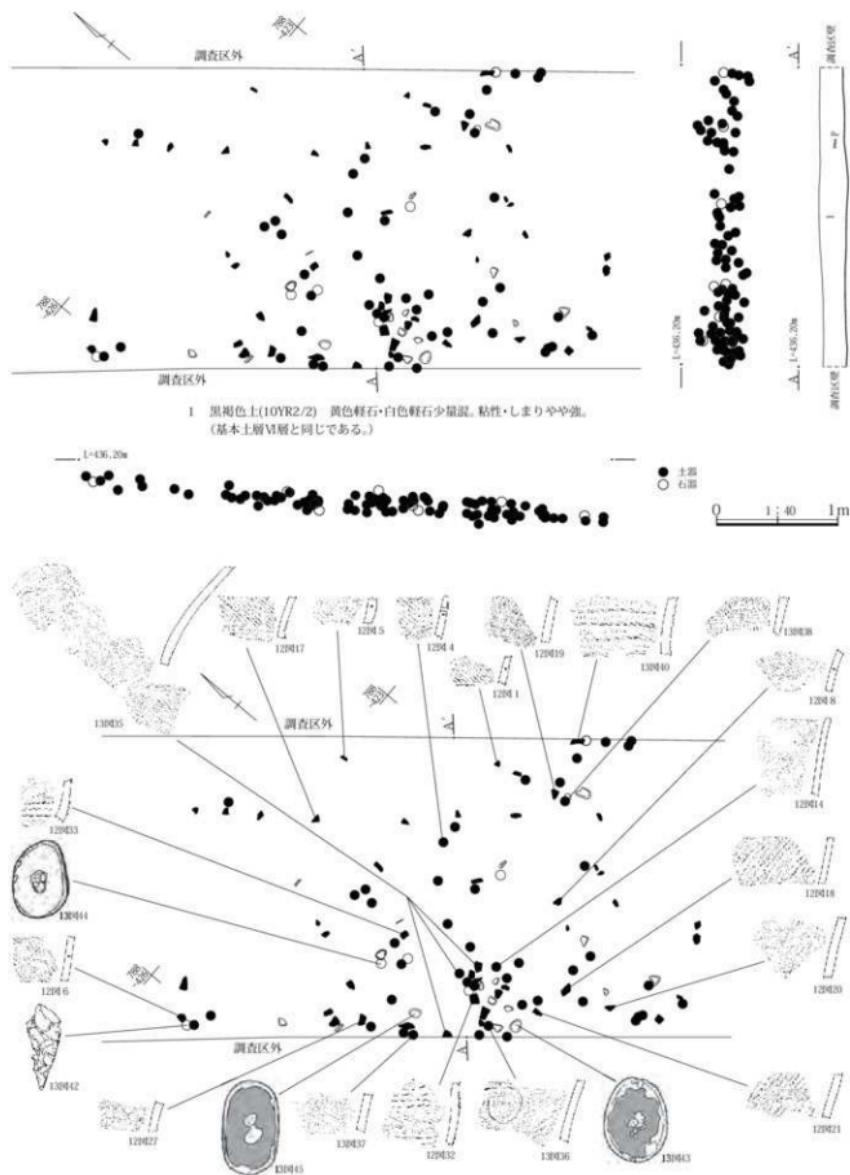
規模 長さ：30.8m 幅：0.3m 深さ：8cm

重複 なし 出土遺物 なし

所見 調査幅が狭かったため、詳細は確認できなかったが、底面の凹凸が著しい溝状に掘られた復旧坑と推測される。土層堆積は部分的にしか観察できなかったが、基本的に3号復旧坑と同じ方法で採掘され、埋め戻された復旧坑と推測される。



第10図 繩文時代・遺構全体図(1区・2区)

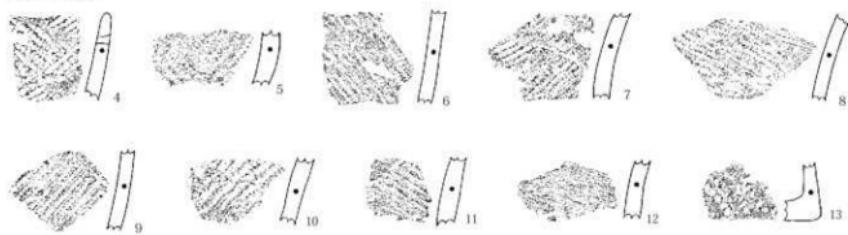


第11図 1区1号遺物集中遺物分布図

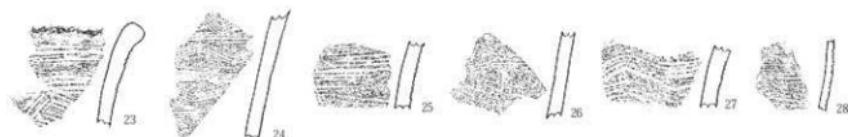
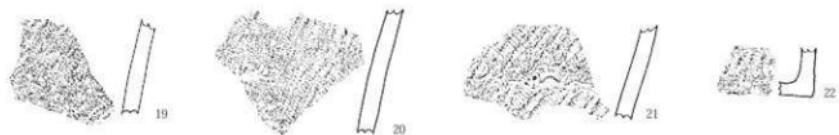
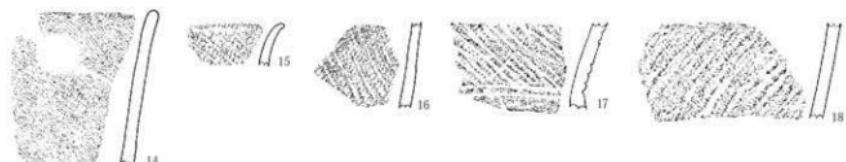
有尾式



黒浜・有尾式



諸磯a式

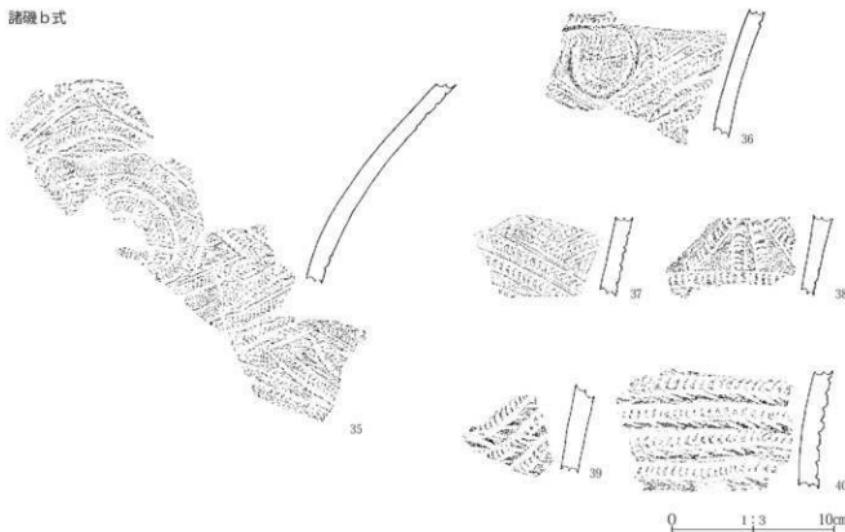


諸磯b式

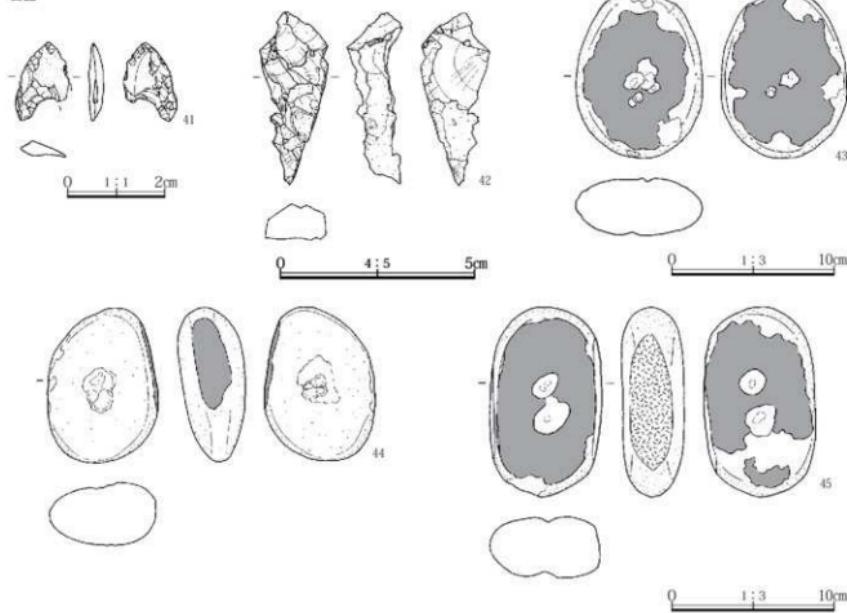


第12図 1区1号遺物集中出土遺物(1)

諸磸b式

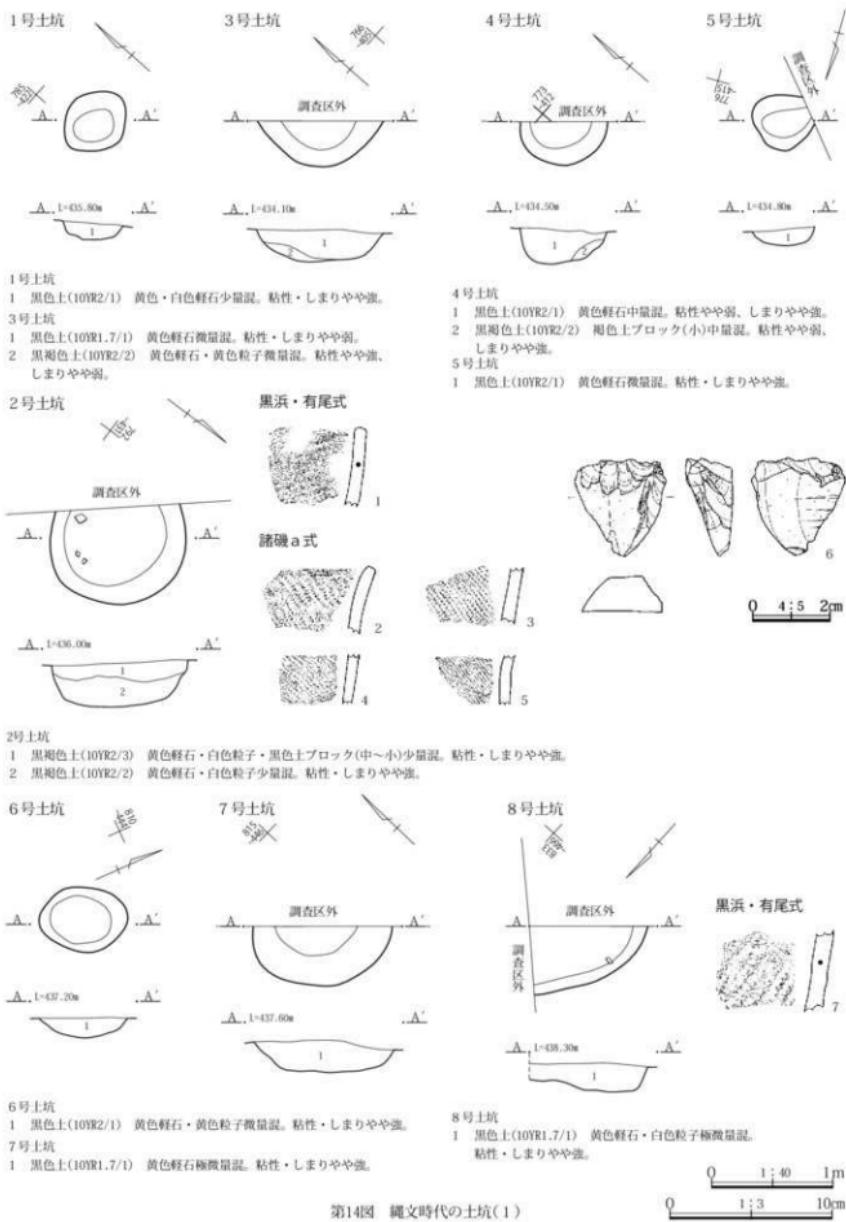


石器

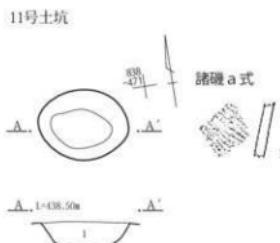
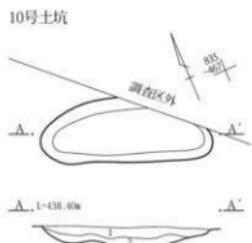
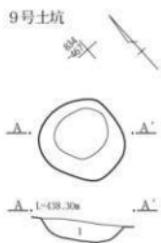


第13図 1区1号遺物集中出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

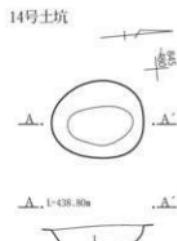


第14図 縄文時代の土坑(1)



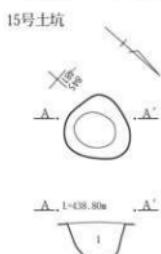
9号土坑
1 黒褐色土(10YR2/2) 黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。
10号土坑
1 黒色土(10YR2/1) 黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。
2 黒褐色土(10YR2/3) 黑色土ブロック(小)微量混。粘性・しまりやや強。

11号土坑
1 黒色土(10YR1.7/1) 黄色軽石・白色粒子微量、黒褐色土ブロック(大～中)少量混。粘性・しまりやや強。



12号土坑
1 黒褐色土(10YR2/2) 黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。
13号土坑
1 黒色土(10YR2/1) 黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。

14号土坑
1 黒色土(10YR1.7/1) 黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。

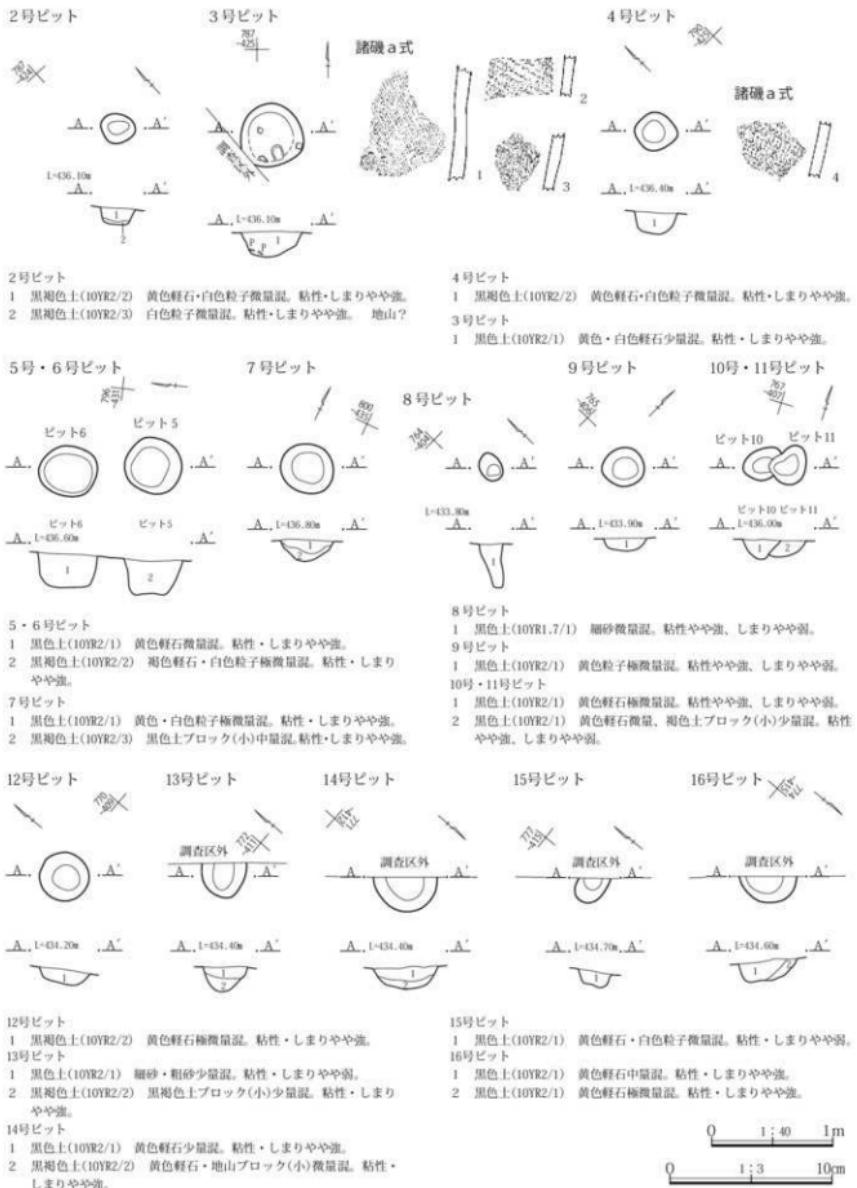


15号土坑
1 黒色土(10YR1.7/1) 黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。
16号土坑
1 黒色土(10YR2/1) 黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。

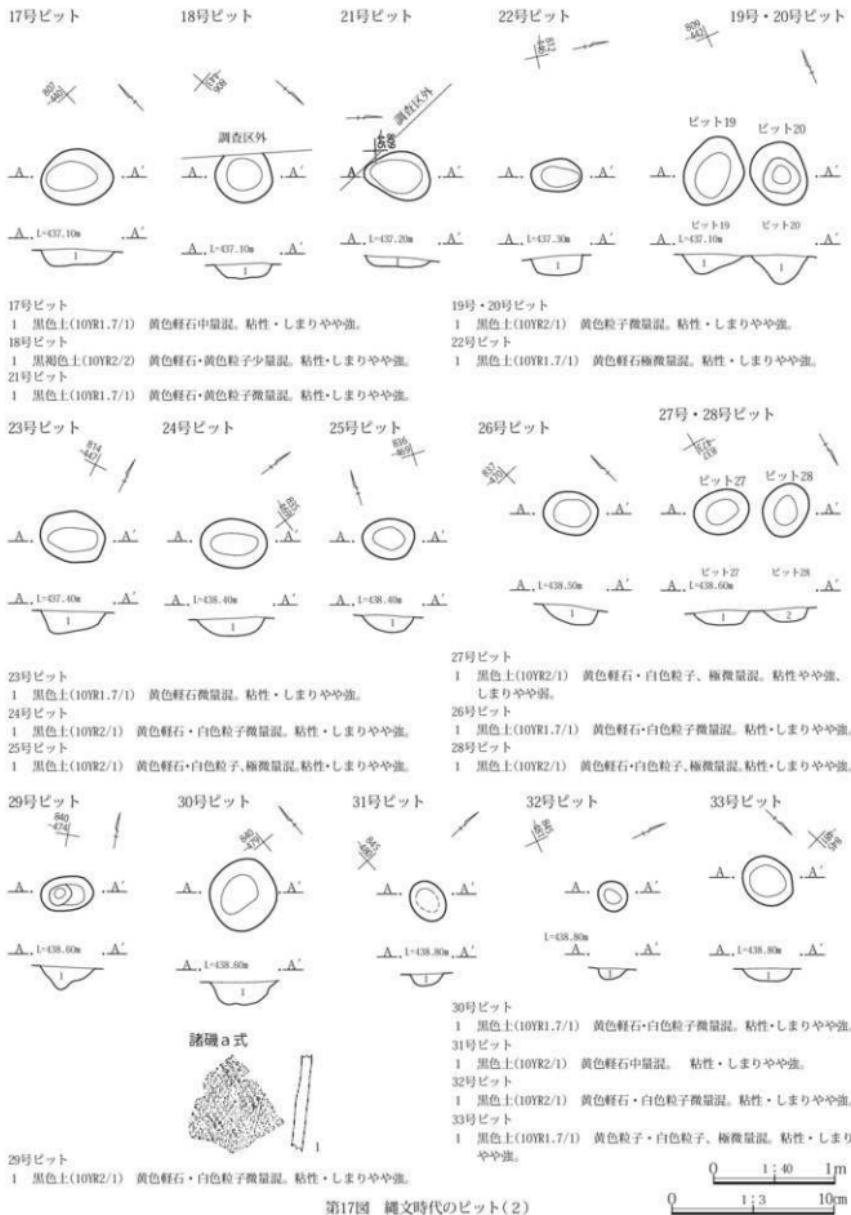


第15図 縄文時代の土坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物



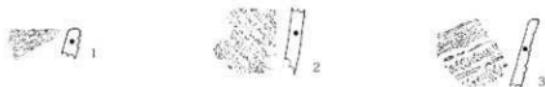
第16図 繩文時代のピット(1)



第17図 縄文時代のビット(2)

第3章 検出された遺構と遺物

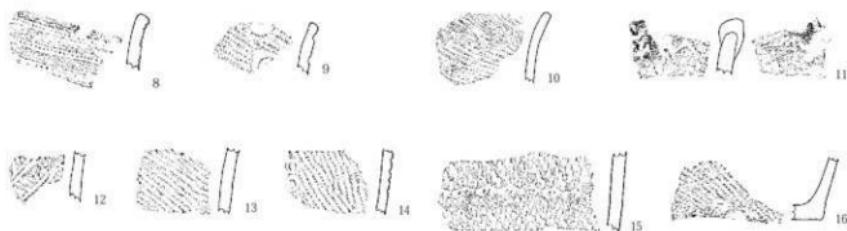
黒浜式



黒浜・有尾式



諸磯a式

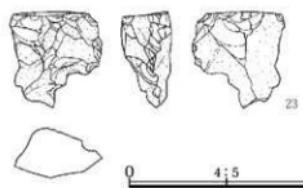
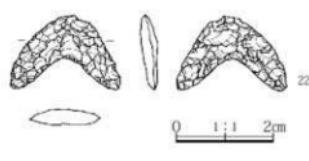


諸磯b式



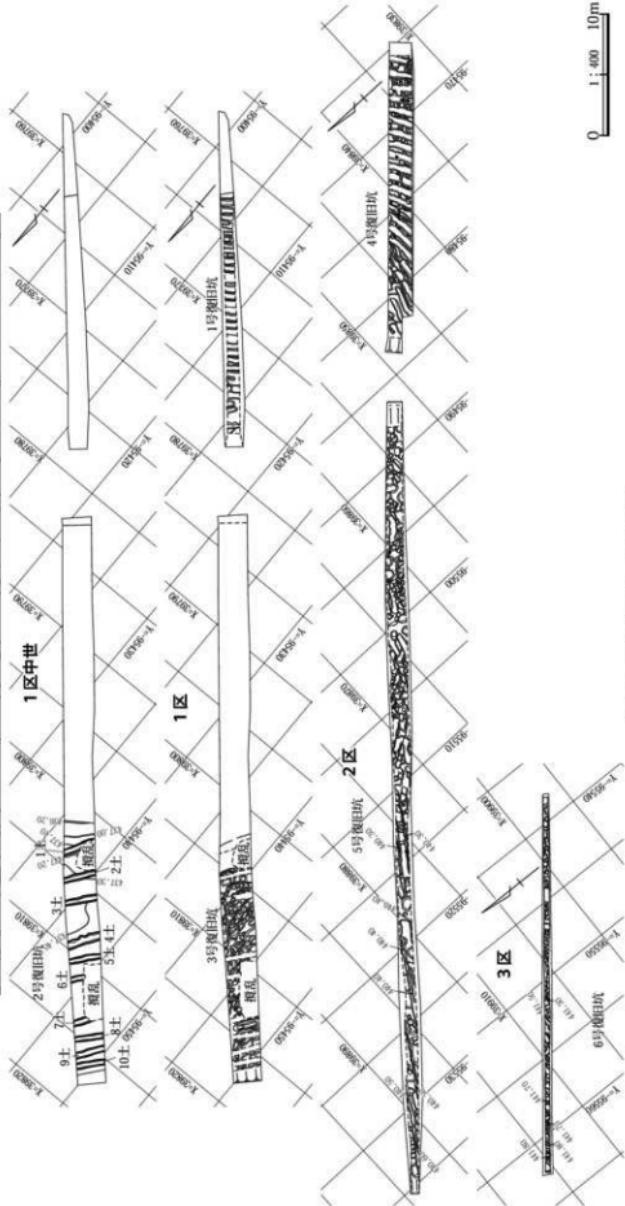
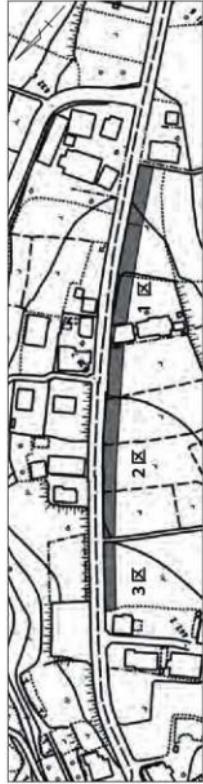
0 1:3 10cm

石器



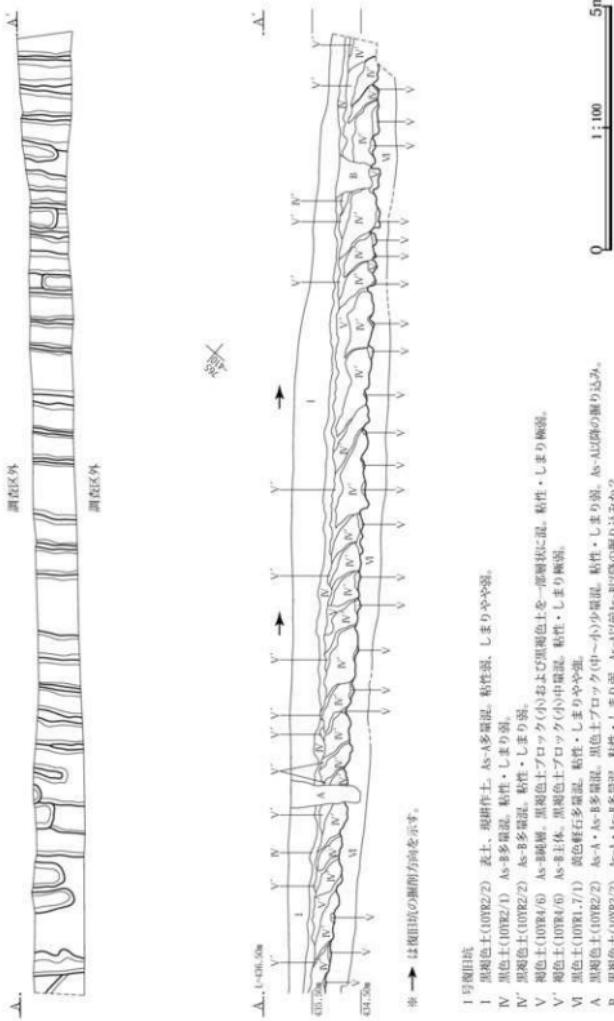
第18図 遺構外出土遺物

0 1:400 10m

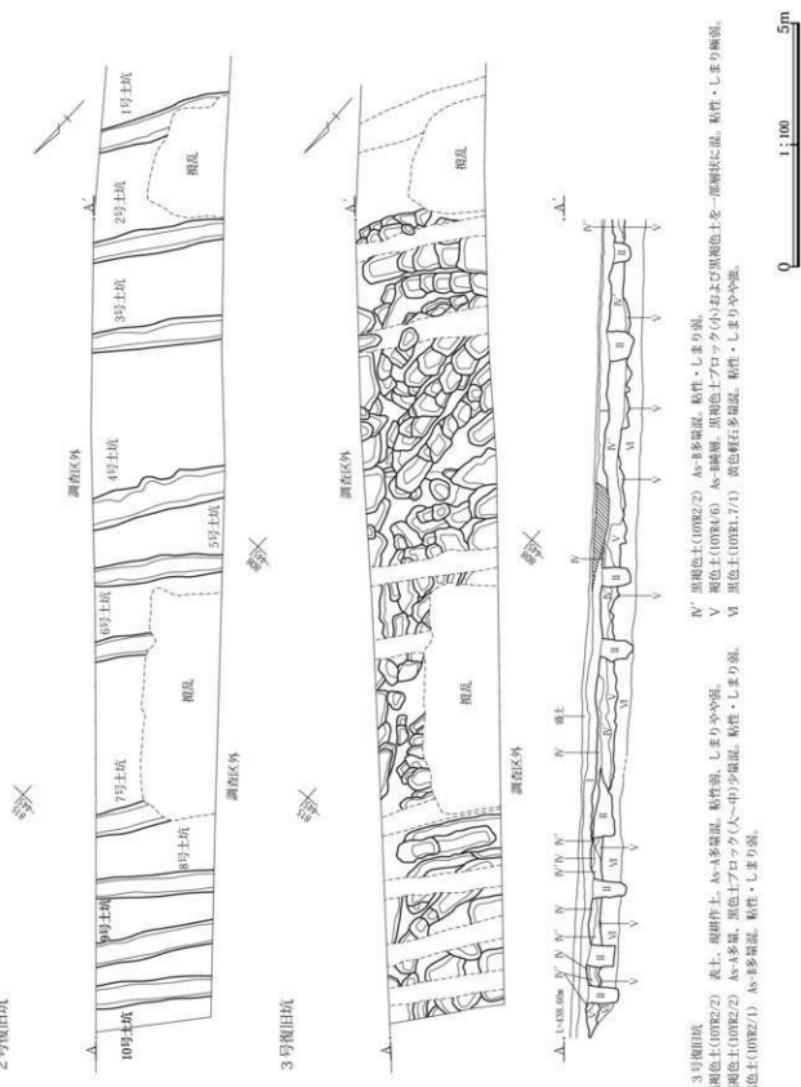


第19図 平安時代以降・遺構全体図

1号復旧坑

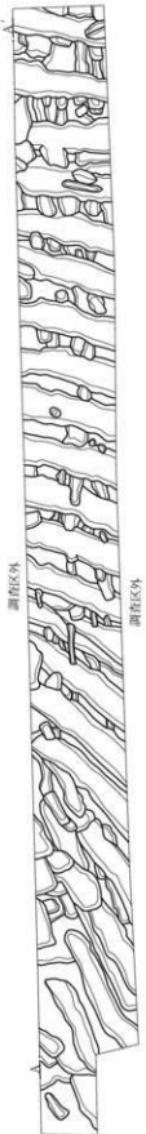


第20図 1区 1号復旧坑

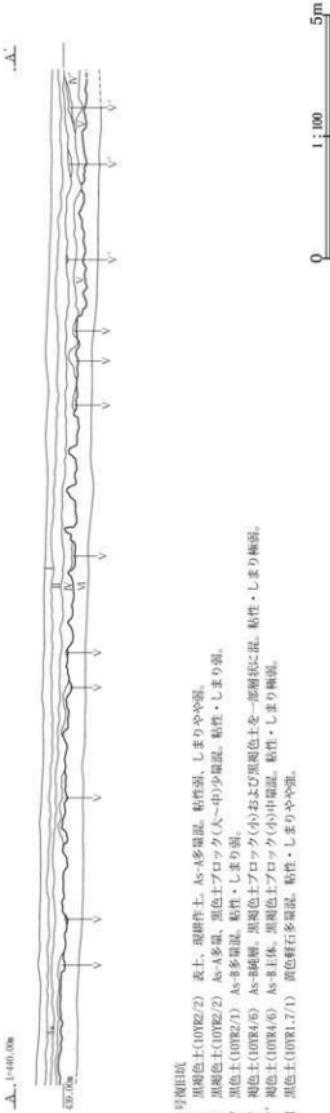


第21図 1区2号・3号復旧坑

4号復旧坑

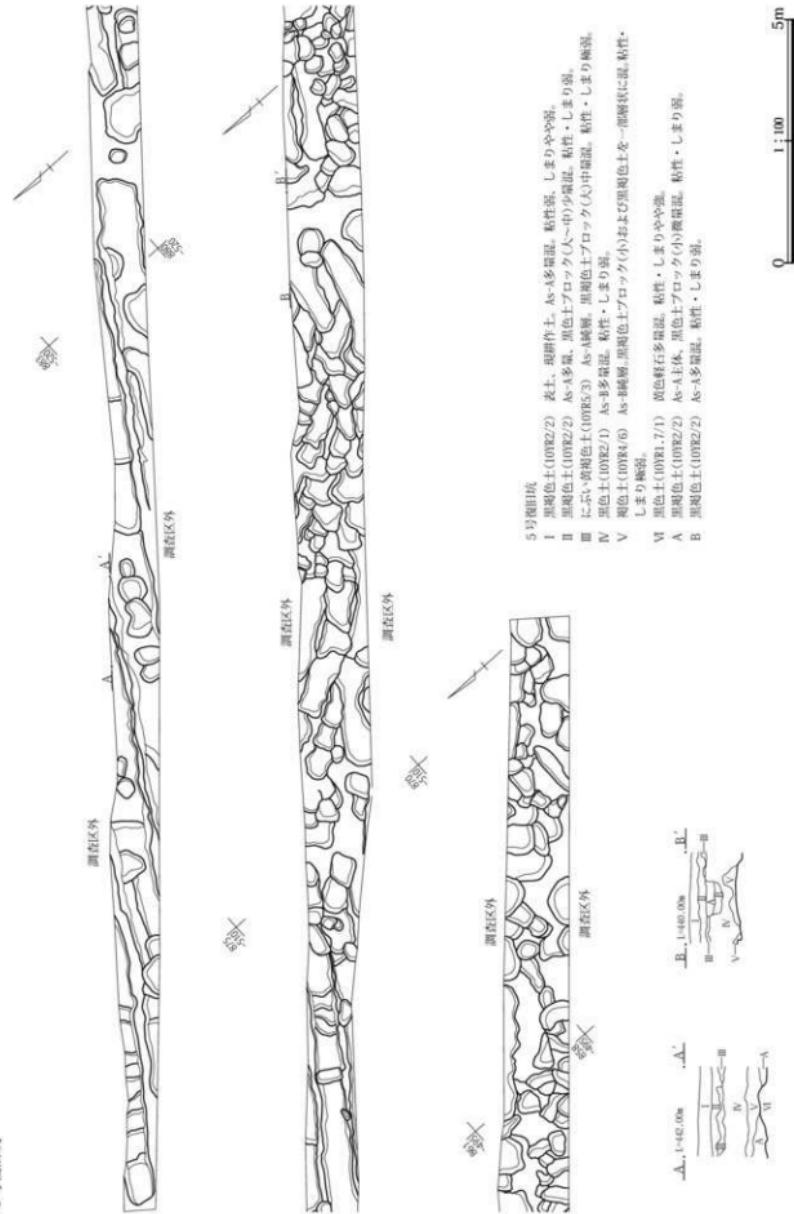


34



第22図 2区4号復旧坑

5号復旧坑



6号廻旧坑



6号廻旧坑
 II 黒褐色土(10R2/2) As-多量混、黒色土-ブロック(人)-中少量混。粘性・しまり弱。
 III 黒褐色土(10R2/2) As-多量、黒色土-ブロック(人)-中少量混。粘性・しまり弱。
 IV 黒褐色土(10R5/3) As-A純層、黒褐色土-ブロック(人)-中量混。粘性・しまり弱。
 V 黑褐色土(10R2/1) As-多量混。粘性・しまり弱。
 VI 黒褐色土(10R4/6) As-鉛鉱層。黒褐色土-ブロック(人)-おとび黒褐色土を一部離状に混。粘性・しまり極弱。
 VII 黒褐色土(10R1/7) 黄色軽石多量混。粘性・しまりやや強。

第24図 3区6号廻旧坑

第4章 調査成果

第1節 繩文時代

(1)出土遺物について

縄文土器は計590点出土した。大部分が1区1号遺物集中からの出土であった。土器型式は前期中葉の黒浜式土器、有尾式土器、前期後葉の諸磯a式土器、諸磯b式土器が確認された。ほかの時期の土器は確認できなかった。

土器型式の検討から、検出された縄文時代の遺跡は、前期中葉から前期後葉の時期に形成されたもので、長期間にわたる通的な遺跡ではなく比較的短い時間幅のなかで形成された遺跡といえる。

縄文石器は、計33点出土した。凹石や黒曜石製の石鎚、剥片、原石が確認された。黒曜石製の石器は肉眼観察ではあるが、長野県和田岬一帯の黒曜石産地のものを利用した可能性が高い。また、黒曜石製原石は長さが25mm程度の非常に小さな角礫(ズリ)で、石鎚の素材剥片生産用の原料として遺跡に持ち込まれたと考えられる。

出土点数は少なかったものの、黒曜石製原石(ズリ)の出土によって、原料として採掘された黒曜石のサイズ、採掘後の搬出・流通など、縄文時代前期における中部高地の黒曜石産地と関東地方の消費地をめぐる黒曜石利用の様相を検討できる資料が得られたといえる。

(2)遺構について

縄文時代の遺構は、遺物集中1か所、土坑16基、ピット32基が検出された。

土坑は平面規模が1m以下の小型のものが大部分で、掘り込みの深さも遺構確認面から10~30cm程度と浅く、覆土も地山の黒色土(VI層)との区別が難しかった。また、まとまった遺物が出土した土坑もほとんどなかった。これはピットも同様であった。縄文時代に一般的な袋状・円筒状・擂鉢状の大型で深い土坑とは異なっていた。

このことから検出された土坑の多くは、第3章に記載したように人為的に掘削された遺構ではなく自然営為によってシミ状に形成された自然の浅い窪みであった可能性が高いと判定した。

遺跡の性格を正しく評価し報告するためには、まず調

査された遺構が人為的な遺構か、あるいは自然地形の痕跡かをもう一度調査所見や記録図面・写真と照合して再検証し、最終的に判定しておくことが必要である。そして、遺構の数量、時代・時期、形状・規模、共伴遺物などの属性に基づき、遺跡形成過程と人間行動を結び付けて総合的に検討し、遺跡の性格を評価しなければならない。

本報告では検出された縄文時代の土坑・ピットの多くは自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。しかし、遺物集中や遺構外の出土遺物が示すように、本遺跡に縄文時代前期の遺跡が残されたこと自体は確実である。堅穴建物や土坑など、明確な遺構を伴う縄文時代前期の集落は今回の調査区の近くに存在していると考えられる。

第2節 平安時代

検出された平安時代の復旧坑(1号・3号～6号復旧坑)は、浅間山噴火による浅間B軽石(As-B 1108年降灰)で覆われた畑を復旧するために耕作土を天地返しした遺構である。形成時期はAs-B降灰直後と考えられる。

As-Bの給源火山である浅間山は、本遺跡から直線で北西に約24kmの近距離に位置するため、降灰直後には相当な量のAs-Bが堆積したと想定される。その後、As-Bは復旧坑の掘削に伴い黒色土の中に攪拌された。このため、実際に積もったAs-Bの層厚は確認できなかった。

復旧坑は、今回の細長い調査範囲の広範囲から検出された。したがって、平安時代の終わり頃、この一带に大規模な畑が存在し、As-B降灰後にその畑を復旧していたと考えられる。なお、畑を耕作していた人々の集落は確認できなかったが、近くに存在していると考えられる。

平安時代の終わり頃、本遺跡一帯に暮らしていた人々は大規模な畑を営んでいた。そのような中、1108年に発生した浅間山の噴火で畑は火山灰で埋まった。しかし、人々は火山災害に直面しても畑を放棄せず、復旧坑を掘って畑を復旧し生活再建を図ったと考えられる。

今回の調査により、平安時代の土地利用と災害復興の様子を把握でき、安中市松井田地域における地域史復元のための成果が得られたといえる。

遺構一覧表

遺構一覧表

No	区	遺構番号	時代	X座標	Y座標	平面形状	断面形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)
1	1	1号遺物集中	縄文	39784~39788	-95422~-95426			450	250	20
2	1	1号土坑	縄文	39784	-95421~-95422	円	擂跡	48	48	20
3	1	2号土坑	縄文	39792~39793	-95429~-95430	円	擂跡	110	△79	34
4	1	3号土坑	縄文	39765~39766	-95405~-95406	不明	擂跡	△103	△37	19
5	1	4号土坑	縄文	39772~39773	-95411~-95412	円	筒	70	△35	23
6	1	5号土坑	縄文	39775~39776	-95415	不整形	皿	△46	46	16
7	1	6号土坑	縄文	39809	-95443	稍円	皿	71	53	17
8	1	7号土坑	縄文	39813~39814	-95445~-95446	円	皿	114	△48	19
9	2	8号土坑	縄文	39833~39834	-95466~-95467	不明	不明	△95	△56	19
10	2	9号土坑	縄文	39833	-95467	円	皿	70	65	20
11	2	10号土坑	縄文	39834~39835	-95467~-95468	長楕円	皿	140	53	17
12	2	11号土坑	縄文	39837~39838	-95472	楕円	擂跡	74	58	21
13	2	12号土坑	縄文	39840~39841	-95475~-95476	楕円	擂跡	70	67	14
14	2	13号土坑	縄文	39841~39842	-95476	円	皿	62	60	19
15	2	14号土坑	縄文	39844	-95479	稍円	擂跡	76	63	21
16	2	15号土坑	縄文	39845	-95480~-95481	円	筒	54	51	30
17	2	16号土坑	縄文	39846	-95480~-95481	円	皿	84	44	20
18	欠番	1号ビット	縄文	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番
19	1	2号ビット	縄文	39785~39876	-95424	円	皿	29	24	16
20	1	3号ビット	縄文	39786	-95424~-95425	円	擂跡	51	51	21
21	1	4号ビット	縄文	39789	-95425~-95426	稍円	擂跡	35	31	20
22	1	5号ビット	縄文	39795	-95431	円	筒	46	46	32
23	1	6号ビット	縄文	39796	-95431	楕円	筒	48	41	26
24	1	7号ビット	縄文	39799	-95435	円	皿	43	41	18
25	1	8号ビット	縄文	39763	-95403	稍円	筒	24	17	37
26	1	9号ビット	縄文	39564~39565	-95405	円	皿	35	32	11
27	1	10号ビット	縄文	39766	-95406~-9407	稍円	擂跡	35	25	16
28	1	11号ビット	縄文	39766	-95407	楕円	皿	33	21	13
29	1	12号ビット	縄文	39769~39770	-95409~-95410	円	皿	40	40	16
30	1	13号ビット	縄文	39771~39772	-95411	稍円	擂跡	36	△28	21
31	1	14号ビット	縄文	39771	-95411~-95412	円	擂跡	52	△29	16
32	1	15号ビット	縄文	39776	-95414~-95415	稍円	擂跡	△30	22	12
33	1	16号ビット	縄文	39774	-95414	円	擂跡	46	△21	13
34	1	17号ビット	縄文	39806	-95440	円	皿	59	45	13
35	1	18号ビット	縄文	39801	-95442	円	皿	47	△45	12
36	1	19号ビット	縄文	39807~39808	-95442	円	擂跡	57	46	14
37	1	20号ビット	縄文	39809	-95441~-95442	円	擂跡	52	45	24
38	1	21号ビット	縄文	39808	-95443~-95444	稍円	皿	55	40	8
39	1	22号ビット	縄文	39811~39812	-95444~-95445	稍円	擂跡	41	26	16
40	1	23号ビット	縄文	39813	-95446	稍円	擂跡	52	42	18
41	2	24号ビット	縄文	39834	-95468~-95469	楕円	皿	54	40	13
42	2	25号ビット	縄文	39835	-95469	楕円	皿	41	34	14
43	2	26号ビット	縄文	39836	-95469~-95470	楕円	皿	45	36	18
44	2	27号ビット	縄文	39837	-95472~-95473	楕円	皿	46	36	13
45	2	28号ビット	縄文	39837~39838	-95473	楕円	皿	45	36	15
46	2	29号ビット	縄文	39839	-95473~-95474	楕円	擂跡	43	29	21
47	2	30号ビット	縄文	39839~39840	-95474	円形	擂跡	55	55	20
48	2	31号ビット	縄文	39845	-95480	楕円	擂跡	35	28	10
49	2	32号ビット	縄文	39845	-95480	円形	擂跡	25	24	10
50	2	33号ビット	縄文	39844~39845	-95480	円形	皿	44	37	10
51	1	1号復旧坑	平安	39761~39777	-95402~-95416			1976	108	16
52	1	2号復旧坑	中世	39801~39817	-95436~-95450			1852	268	73
53	1	3号復旧坑	平安	39801~39817	-95436~-95450			1852	268	15
54	2	4号復旧坑	平安	39831~39848	-95465~-95482			2312	196	15
55	2	5号復旧坑	平安	39852~39893	-95487~-95534			6160	150	18
56	3	6号復旧坑	平安	39896~39915	-95538~-95562			3080	32	8

△は複数や調査区外で実際の大きさが不明なもの

1区1号遺物集中

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	地面上成形・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1284 PL.14	1	縄文土器 深鉢	口辺部破片		細砂、織維、片岩、 織維/ふつう/	横位平行沈線を複数段施す。地文にIR織文を横位施文。	有尾式
第1284 PL.14	2	縄文土器 深鉢	口辺部破片		細砂、織維/良好/	連續爪形による菱形状モチーフを施す。	有尾式
第1284 PL.14	3	縄文土器 深鉢	口辺部破片		細砂、織維/ふつう/	2条の平行沈線による菱形状モチーフを施す。	有尾式
第1284 PL.14	4	縄文土器 深鉢	口辺部破片		細砂、織維/ふつう/	LR、RL織文を羽状施文する。補修孔あり。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	5	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、織維/ふつう/	LR、RL織文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	6	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、織維/ふつう/	IR織文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	7	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、織維/ふつう/	LR織文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	8	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、織維/ふつう/	RL織文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	9	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、織維/ふつう/	附加条1種LR+I織文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	10	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、織維/ふつう/	LR織文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	11	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、織維/ふつう/	LR、RL織文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	12	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、織維、織縫 /ふくろう/	無節RL織文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	13	縄文土器 深鉢	底部破片		細砂、織維/ふつう/	IR織文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1284 PL.14	14	縄文土器 深鉢	口縁部破片		細砂、輝石/良好/	IR織文を横位施文する。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	15	縄文土器 深鉢	口縁部破片		粗砂/良好/	口縁が緩く外反。異条絹文を横位施文する。内面ミガキ整形。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	16	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂/良好/	IR織文を横位施文する。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	17	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂/良好/	この字状に緩く外屈する。屈曲部に横位平行沈線をめぐらして文様帶を区画、斜行する平行沈線を施す。米字文か。文様帶内、地文にIR織文を横位施文。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	18	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂/良好/	0段多条LR織文を横位施文する。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	19	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂/良好/	0段多条LR織文を横位施文する。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	20	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂/良好/	0段多条LR織文を横位施文する。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	21	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂/ふつう/	0段多条LR織文を横位施文する。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	22	縄文土器 深鉢	底部破片		粗砂/良好/	0段多条LR織文を横位施文する。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	23	縄文土器 深鉢	口縁部破片		粗砂/良好/	口唇部肥厚。横位、鋸歯状の条線を施す。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	24	縄文土器 深鉢	口辺部破片		粗砂/良好/	横位、波状の条線を交互多段に施す。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	25	縄文土器 深鉢	口辺部破片		粗砂/ふつう/	横位柔線を複数段施す。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	26	縄文土器 深鉢	口辺部破片		粗砂、輝石/良好/	刷毛目状の条線による木葉状文を多段に施す。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	27	縄文土器 深鉢	口辺部破片		粗砂/良好/	横位波状の条線を複数段施す。	諸磯 a 式
第1284 PL.14	28	縄文土器 深鉢	口辺部破片		粗砂/良好/	平行沈線を横位多段に施す。	諸磯 a 式
第1284 PL.15	29	縄文土器 深鉢	口縁部破片		粗砂/良好/	口縁下に3条の浮線をめぐらし。以下の文様帶内に浮線による弧状モチーフを施す。	諸磯 a 式
第1284 PL.15	30	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂、織縫/良好/	斜位、弧状の浮線を施す。地文にIR織文を横位施文。	諸磯 b 式

遺物觀察表

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1286 PL.15	31	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂/良好/	横幅浮線をめぐらして文様帶を区画。文様帯内に浮線による對弧状モチーフを施す。地文にIR縄文を横位施文。	諸磯 b式
第1286 PL.15	32	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂/良好/	複数条の浮線を横位帯状にめぐらす。地文にIR縄文を横位施文。	諸磯 b式
第1286 PL.15	33	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂/ふつう/	横幅3条の浮線をめぐらす。地文にIR縄文を横位施文。	諸磯 b式
第1286 PL.15	34	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、石英/良好/	横幅2条の浮線をめぐらす。地文にIR縄文を横位施文。	諸磯 b式
第1386 PL.15	35	縄文土器 深鉢	口辺部破片		粗砂、輝石/ふつう/	横幅連続爪形文をめぐらして口縁部文様帶を区画、連続爪形文による菱形状モチーフを施し、内部に渦巻状文を配す。内面ミガキ整形。	諸磯 b式
第1386 PL.15	36	縄文土器 深鉢	側部破片			35と同一個体。	諸磯 b式
第1386 PL.15	37	縄文土器 深鉢	口辺部破片		粗砂、輝石/良好/	連続爪形文による菱形状モチーフを施す。	諸磯 b式
第1386 PL.15	38	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好/	横幅連続爪形文をめぐらして文様帶を区画、連続爪形文による三角形状モチーフを施し、内部に羅位2条の連続爪形文を配す。	諸磯 b式
第1386 PL.15	39	縄文土器 深鉢	側部破片		細砂、輝石/良好/	張状の連続爪形文を施す。爪形文間に斜位刻みを施文。	諸磯 b式
第1386 PL.15	40	縄文土器 深鉢	側部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好/	連続爪形文を横位多段に施す。爪形文間に斜位刻みを施文。	諸磯 b式
第1386 PL.15	41	縄文石器 石鏡	理上	長 16.0 厚 3.0 幅 10.0 重 0.4	黒曜石	門基無茎鏡、右脚部欠損	
第1386 PL.15	42	縄文石器 鏡片	理上	長 44.0 厚 9.0 幅 17.0 重 5.6	黒曜石	小型角鏡(ズリ)を素材、裏面が全体に残る	
第1386 PL.15	43	縄文石器 門石	理上	長 105.0 厚 36.0 幅 75.0 重 393.1	溶結凝灰岩	偏平梢円錐を素材、背面中央部にくぼみと摩耗痕	
第1386 PL.15	44	縄文石器 門石	理上	長 94.0 厚 39.0 幅 55.0 重 333.4	花崗岩	偏平梢円錐を素材、背面中央に凹み、側縁に摩耗痕	
第1386 PL.15	45	縄文石器 門石	理上	長 115.0 厚 38.0 幅 68.0 重 499.0	粗粒輝石安山岩	偏平梢円錐を素材、背面中央部に凹みと摩耗痕、右側面に敲打痕	

1区2号土坑

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1484 PL.15	1	縄文土器 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、織維/ふつう/	IR縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1484 PL.15	2	縄文土器 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、輝石/良好/	口縁が緩く外反。IR縄文を横位施文する。	諸磯 a式
第1484 PL.15	3	縄文土器 深鉢	理上 側部破片		細砂、輝石/良好/	IR縄文を横位施文する。	諸磯 a式
第1484 PL.15	4	縄文土器 深鉢	理上 側部破片		細砂、輝石/良好/	IR縄文を横位施文する。	諸磯 a式
第1484 PL.15	5	縄文土器 深鉢	理上 側部破片		細砂/良好/	IR縄文を横位施文する。	諸磯 a式
第1484 PL.15	6	縄文石器 原石	理上	長 25.0 厚 11.0 幅 24.0 重 5.5	黒曜石	小型角鏡(ズリ)を素材、端部に剥離痕	

2区8号土坑

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1488 PL.16	7	縄文土器 深鉢	理上 側部破片		細砂、織縫、織道 /ふつう/	IR縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式

2区11号土坑

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1588 PL.16	1	縄文土器 深鉢	理上 側部破片		細砂/良好/	IR縄文を横位施文する。	諸磯 a式

2区16号土坑

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1588 PL.16	2	縄文土器 深鉢	理上 側部破片		粗砂、輝石/良好/	IR縄文を横位施文する。	諸磯 a式

1区3号ピット

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1684 PL.16	1	縄文土器 深鉢	理上 制部破片		細砂、輝石/良好	粗繩文を横位施文する。	諸磯a式
第1684 PL.16	2	縄文土器 深鉢	理上 制部破片		細砂/良好	粗繩文を横位施文する。	諸磯a式
第1684 PL.16	3	縄文土器 深鉢	理上 制部破片		細砂/良好	粗繩文を横位施文する。	諸磯a式

1区4号ピット

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1684 PL.16	4	縄文土器 深鉢	理上 制部破片		細砂、織維/ふつ う/	複節RL繩文を横位施文する。	諸磯a式

2区30号ピット

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1784 PL.16	1	縄文土器 深鉢	理上 制部破片		細砂/良好	粗繩文を横位施文する。	諸磯a式

遺構外

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1884 PL.16	1	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片		細砂、赤色粒、織 維/良好	口縁下にコンバス文をめぐらす。	黒浜式
第1884 PL.16	2	縄文土器 深鉢	2面 制部破片		粗砂、織維/ふつ う/	斜行する連続爪形文を施す。地文に粗繩文を横位施文。	黒浜式
第1884 PL.16	3	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片		細砂、織維/ふつ う/	波状口縁。口縁に沿って連続爪形文を施す。	有尾式
第1884 PL.16	4	縄文土器 深鉢	2面 制部破片		細砂、織維/ふつ う/	横位平行蛇線をめぐらす。	黒浜・有尾式
第1884 PL.16	5	縄文土器 深鉢	2面 制部破片		細砂、織維/ふつ う/	附加条1種RL+繩文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第1884 PL.16	6	縄文土器 深鉢	2面 制部破片		細砂、織維/ふつ う/	LR、RL繩文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第1884 PL.16	7	縄文土器 深鉢	2面 制部破片		細砂、織維/ふつ う/	LR、RL繩文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第1884 PL.16	8	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片		細砂/ふつう/ 口縁部破片	波状口縁。口縁に沿って連続爪形文を複数段施す。内面ミ ガキ整形。	諸磯a式
第1884 PL.16	9	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片		粗砂/良好	円形竹管刺突を複位に施す。地文に粗繩文を横位施文。	諸磯a式
第1884 PL.16	10	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片		粗砂/良好	口縁が緩く外反。粗繩文を横位施文する。内面ミガキ整形。	諸磯a式
第1884 PL.16	11	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片		細砂/ふつう/ 口縁部破片	粗繩文を横位施文する。口縁に小突起を付す。	諸磯a式
第1884 PL.16	12	縄文土器 深鉢	2面 口辺部破片		細砂/良好	複位、斜位の平行蛇線を施す。米字文か。地文にRL繩文を 横位施文。	諸磯a式
第1884 PL.16	13	縄文土器 深鉢	2面 制部破片		細砂、輝石/良好	粗繩文を横位施文する。	諸磯a式
第1884 PL.16	14	縄文土器 深鉢	2面 口辺部破片		細砂/良好	円形竹管刺突を複位に施す。地文に粗繩文を横位、斜位施 文。	諸磯a式
第1884 PL.16	15	縄文土器 深鉢	2面 制部破片		粗砂、輝石/良好	粗繩文を横位施文する。内面ミガキ整形。	諸磯a式
第1884 PL.16	16	縄文土器 深鉢	2面 底部破片		細砂/良好	粗繩文を横位施文する。	諸磯a式
第1884 PL.16	17	縄文土器 深鉢	2面 制部破片	長:15.0 幅:13.0	粗砂、白色粒、輝 石/良好	複数条の浮線を横位帯状にめぐらす。地文にRL繩文を横位 施文。	諸磯b式
第1884 PL.16	18	縄文土器 深鉢	2面 制部破片	長:25.0 幅:24.0	細砂/ふつう/ 底部破片	複数条の浮線を横位帯状にめぐらす。地文にRL繩文を横位 施文。	諸磯b式
第1884 PL.16	19	縄文土器 深鉢	2面 制部破片	長:15.0 幅:13.0	粗砂、赤色粒/良 好	複位、弧状の浮線。円形竹管刺突を施す。	諸磯b式
第1884 PL.16	20	縄文土器 深鉢	2面 制部破片	長:25.0 幅:24.0	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう/ 底部破片	横位連続爪形文をめぐらして文様帶を区画区画。連続爪 形による複位、渦巻状文を施す。	諸磯b式
第1884 PL.16	21	縄文土器 深鉢	2面 制部破片	長:25.0 幅:24.0	粗砂、織維、輝石 /良好	平行蛇線による斜格子目文を施す。	諸磯b式
第1884 PL.16	22	縄文土器 石鐵	2面 原石	長:15.0 幅:13.0	3.0 重:0.8	黒曜石	凹基無茎窓
第1884 PL.16	23	縄文土器 原石	2面 原石	長:25.0 幅:24.0	12.0 重:6.0	黒曜石	小型角窓(ズリ)を素材

石器一覧表

石器一覧表

No	区	遺構番号	取上No	器種	石材	点数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	図番号
1	1	1号遺物集中	25	円石	花崗岩	1	94	55	39	333.4	13図44
2	1	1号遺物集中	31	円石	粗粒輝石安山岩	1	115	68	38	499.0	13図45
3	1	1号遺物集中	50	円石	溶結凝灰岩	1	105	75	36	383.1	13図43
4	1	2号土坑		原石	黒曜石	1	25	24	11	5.5	14図6
5	1	1区遺構外		原石	黒曜石	1	25	24	12	6.0	18図23
6	1	1区遺構外		石礫	黒曜石	1	15	13	3	0.8	18図22
7	1	1号遺物集中		石礫	黒曜石	1	16	10	3	0.4	13図41
8	1	1区遺構外		敲石	粗粒輝石安山岩	1	61	35	39	170.2	未掲載
9	1	2号土坑		二次加工剥片	珪質頁岩	1	49	51	10	22.3	未掲載
10	1	1区遺構外		二次加工剥片	黑色頁岩	1	64	26	8	21.4	未掲載
11	2	8号土坑		二次加工剥片	黒曜石	1	20	15	6	1.9	未掲載
12	3	6号土坑		二次加工剥片	黑色安山岩	1	72	46	17	64.2	未掲載
13	1	1号遺物集中	17	剥片	黒曜石	1	44	17	9	5.6	13図42
14	1	1区遺構外		剥片	黑色頁岩	2				29.7	未掲載
15	1	1区遺構外		剥片	黒曜石	3				6.4	未掲載
16	1	3号ピット		剥片	黒曜石	1				0.4	未掲載
17	1	4号土坑		剥片	黒曜石	1				0.4	未掲載
18	1	7号土坑		剥片	溶結凝灰岩	1				9.2	未掲載
19	1	1区遺構外		剥片	細粒輝石安山岩	2				51.1	未掲載
20	1	1区遺構外		剥片	流紋岩	1				0.9	未掲載
21	2	2区遺構外		剥片	黑色頁岩	2				35.6	未掲載
22	2	31号ピット		剥片	黒曜石	1				2.9	未掲載
23	2	2区遺構外		剥片	細粒輝石安山岩	4				106.5	未掲載
24	3	3区遺構外		剥片	黒曜石	2				2.6	未掲載

*遺構別の剥片の点数と重量は石材ごとに合計を示した

合計

1,759.5

写 真 図 版



1 1区北側2面全景(北西から)



2 2区北側3面全景(南東から)



1 1区北側2面全景(南東から)



2 1区南側2面全景(南東から)



3 1区北側東壁セクション(南東から)



4 1区南側東壁セクション(西から)



5 2区北側As-B下全景(南東から)



6 2区南側2面全景(北西から)



7 2区南側東壁セクション(1)(南から)



8 2区南側東壁セクション(2)(南から)



1 3区As-B下全景(北西から)



2 3区As-B下全景(南東から)



3 調査風景(北から)



4 1区南側東壁セクション(南から)



5 2区南側東壁セクション(南から)



6 3区東壁セクション(南から)



7 1区1号トレンチセクション(1)(南から)



8 1区1号トレンチセクション(2)(南から)



1 1区1号遺物集中全景(北西から)



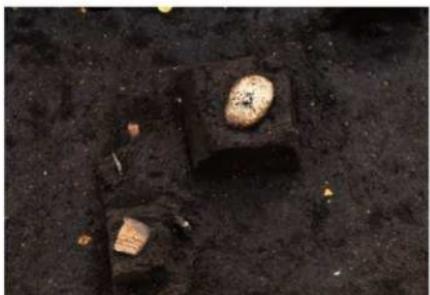
2 1区1号遺物集中セクション(南東から)



3 1区1号遺物集中遺物出土状態(1)(北から)



4 1区1号遺物集中遺物出土状態(2)(北から)



5 1区1号遺物集中遺物出土状態(3)(北から)



1 1区1号土坑全景(北から)



2 1区1号土坑セクション(西から)



3 1区2号土坑全景(東から)



4 1区2号土坑セクション(東から)



5 1区3号土坑全景(西から)



6 1区3号土坑セクション(北西から)



7 1区4号土坑全景(西から)



8 1区4号土坑セクション(西から)



9 1区5号土坑全景(西から)



10 1区5号土坑セクション(北から)



11 1区6号土坑全景(南から)



12 1区6号土坑セクション(南から)



13 1区7号土坑全景(西から)



14 1区7号土坑セクション(西から)



15 2区8号土坑全景(北から)



1 2区8号土坑セクション(北から)



2 2区9号土坑全景(東から)



3 2区9号土坑セクション(西から)



4 2区10号土坑全景(南西から)



5 2区10号土坑セクション(南西から)



6 2区11号土坑全景(南から)



7 2区11号土坑セクション(西から)



8 2区12号土坑全景(南から)



9 2区12号土坑セクション(西から)



10 2区13号土坑全景(南から)



11 2区13号土坑セクション(西から)



12 2区14号土坑全景(南から)



13 2区14号土坑セクション(西から)



14 2区15号土坑全景(東から)



15 2区15号土坑セクション(東から)



1 2区16号土坑全景(南から)



2 2区16号土坑セクション(南から)



3 1区北側2面全景(北西から)



4 1区2号ピット全景(東から)



5 1区2号ピットセクション(西から)



6 1区3号ピット全景(東から)



7 1区3号ピットセクション(西から)



8 1区4号ピット全景(西から)



9 1区4号ピットセクション(西から)



10 1区5号ピット全景(東から)



11 1区5号ピットセクション(西から)



12 1区6号ピット全景(東から)



13 1区6号ピットセクション(西から)



14 1区7号ピット全景(北から)



15 1区7号ピットセクション(南から)



1 1区8号ピット全景(南東から)



2 1区8号ピットセクション(西から)



3 1区9号ピット全景(南から)



4 1区9号ピットセクション(北から)



5 1区10号・11号ピット全景(南から)



6 1区10号ピットセクション(南から)



7 1区11号ピットセクション(南から)



8 1区12号ピット全景(南から)



9 1区12号ピットセクション(南西から)



10 1区13号ピット全景(南西から)



11 1区13号ピットセクション(西から)



12 1区14号ピット全景(南東から)



13 1区14号ピットセクション(東から)



14 1区15号ピット全景(南西から)



15 1区15号ピットセクション(西から)



1 1区16号ビット全景(東から)



2 1区16号ビットセクション(東から)



3 1区17号ビット全景(南から)



4 1区17号ビットセクション(西から)



5 1区18号ビット全景(東から)



6 1区18号ビットセクション(東から)



7 1区19号ビット全景(西から)



8 1区19号ビットセクション(西から)



9 1区20号ビット全景(西から)



10 1区20号ビットセクション(西から)



11 1区21号ビット全景(南から)



12 1区21号ビットセクション(南から)



13 1区22号ビット全景(南から)



14 1区22号ビットセクション(南から)



15 1区23号ビット全景(西から)



1 1区23号ピットセクション(西から)



2 2区24号ピット全景(南から)



3 2区24号ピットセクション(南から)



4 2区25号ピット全景(南から)



5 2区25号ピットセクション(西から)



6 2区26号ピット全景(西から)



7 2区26号ピットセクション(南から)



8 2区27号ピット全景(東から)



9 2区27号ピットセクション(東から)



10 2区28号ピット全景(東から)



11 2区28号ピットセクション(東から)



12 2区29号ピット全景(東から)



13 2区29号ピットセクション(南から)



14 2区30号ピット全景(東から)



15 2区30号ピットセクション(西から)



1 2区31号ピットセクション(西から)



2 2区31号ピット全景(南から)



3 2区32号ピット全景(南東から)



4 2区32号ピットセクション(南から)



5 2区33号ピット全景(東から)



6 2区33号ピットセクション(東から)



7 1区南側2面全景(南東から)



8 3区全景(南東から)



9 調査風景(1)(北西から)



10 調査風景(2)(南東から)



1 1区1号復旧坑As-B下全景(1)(南から)



2 1区1号復旧坑As-B下全景(2)(南から)



3 1区1号復旧坑As-B下全景(3)(南から)



4 1区1号復旧坑As-B下全景(4)(南から)



5 1区2号復旧坑5号土坑(南から)



6 1区2号復旧坑8号土坑(南から)



7 1区2号復旧坑9号土坑(南から)



8 1区2号復旧坑10号土坑(南から)



1 1区3号復旧坑As-B下全景(1)(北西から)



2 1区3号復旧坑As-B下全景(2)(南東から)



3 2区4号復旧坑As-B下全景(1)(南東から)



4 2区4号復旧坑As-B下全景(2)(南東から)



5 2区5号復旧坑全景(1)(北西から)



6 2区5号復旧坑全景(2)(南東から)



7 3区6号復旧坑全景(南東から)



8 3区東壁セクション(南から)

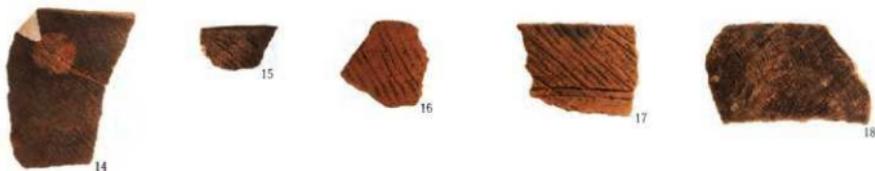
有尾式



黑浜・有尾式



諸磧 a式



諸礮 b 式



石器



1区1号遗物集中出土遗物(2)

黑浜・有尾式

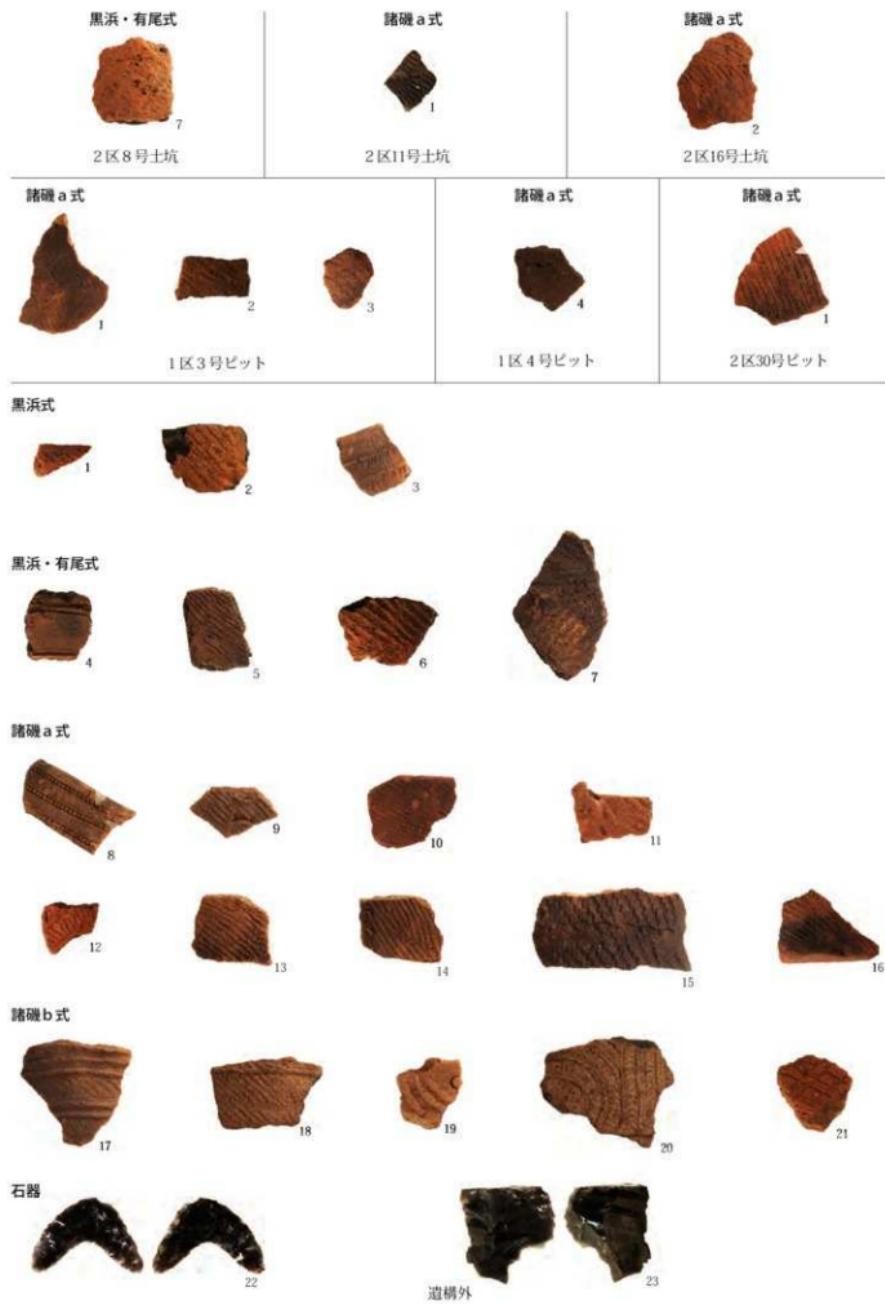


2号土坑

石器

1区1号遗物集中(2)·2号土坑出土遗物

PL.16



土坑・ピット・遺構出土遺物

報告書抄録

書名ふりがな	ひじしおなかはらいせき
書名	土塙中原遺跡
副書名	(一)長久保郷原線(上増田工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	一
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	728
編著者名	関口博幸
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20230719
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ひじしおなかはらいせき
遺跡名	土塙中原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあんなかしまついだまちひじしお
遺跡所在地	群馬県安中市松井田町土塙
市町村コード	10211
遺跡番号	U0039
北緯(世界測地系)	363544
東経(世界測地系)	1387694
調査期間	20220401-20220430
調査面積	775.56
調査原因	歩道整備
種別	生産、集落
主な時代	縄文、平安
遺跡概要	縄文-遺物集中1+土坑16+ピット32／平安-復旧坑5／中世-復旧坑1
特記事項	縄文時代では遺物集中や土坑が検出され前期の土器や石器が多数出土した。平安時代では浅間山の噴火による火山灰で被災した痕の復旧坑が検出された。
要約	縄文時代については黒浜式・有尾式・諸磯a式・諸磯b式土器が出土し、前期中葉から前期後葉の時期に形成された遺跡であることが判明した。平安時代については浅間B軽石で被災した痕を復旧させるために、耕作土を天地返しした復旧坑が広範囲で検出され火山災害からの復興の様子が確認できた。

公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第728集

土塙中原遺跡

(一)長久保郷原線(上増田工区)社会資本総合整備(防災・安全
(文安・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和5(2023)年7月14日 印刷
令和5(2023)年7月19日 発行

編集・発行／公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス <http://www.gunmaibon.org/>
印刷／上野印刷工業株式会社